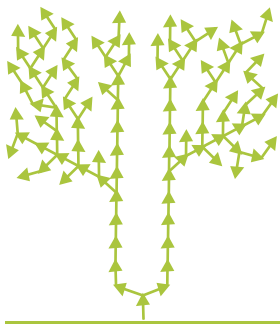


平成 23 年度

弘前大学

つがるネツサンス！地域でつなぐ女性人才

# 活動記録



弘前大学  
「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」

目次

ごあいさつ .....	1
<b>第1章 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」</b>	
1.1 文部科学省科学技術人材育成費補助金 .....	3
女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成） 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」	
1.2 ミッションステートメント .....	5
1.3 実施内容・実施体制 .....	7
1.4 男女共同参画推進室委員名簿 .....	8
<b>第2章 活動報告</b>	
2.1 北東北における男女共同参画推進に向けて「秋田宣言」 .....	9
2.2 学内の現状調査 .....	10
2.2.1 本学の男女比率の現状 .....	10
2.2.2 本学教員に関する男女比率等の現状 .....	12
2.2.3 弘前大学における男女共同参画の取り組みに関する各部局等アンケート .....	13
2.3 学外の現状調査 .....	16
2.3.1 平成23年度女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム .....	16
2.3.2 国立女性教育会館 平成23年度大学職員のための男女共同参画推進研修 .....	21
2.3.3 第2回四国女性研究者フォーラム .....	24
2.3.4 名古屋大学学童保育所視察 .....	26
2.4 意識改革 .....	28
2.4.1 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」第3回講演会 .....	28
2.4.2 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」第4回セミナー .....	30
2.4.3 北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウム .....	32
2.4.4 ニュースレター「さんかくつうしん」Vol. 5～6 .....	34
2.5 理系研究者の裾野拡大と女性研究力向上 .....	42
2.5.1 理科離れ対策事業（他部局との連携による活動） .....	42
2.5.2 女性研究者フォーラム .....	48

2.5.3 学会開催時の託児支援制度 .....	53
2.5.4 教職員のための制度・手続き情報ナビ .....	55
2.5.5 強めるタスク .....	59

### 第3章 資料

3.1 報道関係記事 .....	61
3.2 平成23年度の活動記録 .....	66

ごあいさつ

## 「『選べる』が育てる社会」へ、さらに。

弘前大学男女共同参画推進室  
室長 杉山 祐子

「さまざまな立場の人が学びやすく働きやすい弘前大学へ」を掲げて、弘前大学男女共同参画推進室が開室したのは、平成20年10月1日のことです。弘前大学が抱える課題を取りだして、つぎのような考え方で環境整備を進めてきました。

ひとつは、制度の「もったいない」をなくすことです。せっかく休暇制度や育児・介護支援の制度があるのに、使われていないのはもったいない。ワークライフバランスの実現に役立ちそうな制度情報をあつめた「情報ナビ」ができました。

二つめは、個人の経験知の「もったいない」を減らすことです。個々の教職員や学生が仕事や研究の中で経験知を積み重ねてきても、ほかの人と共有できないのではもったいない。部局や世代を超えた出合いができるように、「フォーラム」や「セミナー」をはじめました。規模は小さくても、生の声でのやりとりは、文字情報にはない効果を発揮しています。

三つめは、個人や各部局での努力や工夫の協働（コラボレート）の方向性を探り、大学全体の大きな充実に結びつけることです。すでに取り組みをはじめていたラボバスプロジェクトや生涯学習教育研究センター、白神自然環境研究所などの活動に相乗りして、KA・GA・KUと題したイベントをはじめました。全学の理科離れ対策専門委員会にも加わって地域の中高生にも参加者の幅を広げ、地域との連携を深めることをめざしています。

今後の課題は、これらを利用しながら、使いやすいように調整していくことです。実践をつづけることによって、否定的な意識や使いにくい雰囲気も変わっていきます。

これまでの取り組みは、女性研究者支援事業（女性研究者支援モデル育成）の採択・実施と重なっていたので、女性教員に焦点が当たりがちでした。これからは、この事業での取り組みを、さまざまな立場の人が能力を発揮しやすい環境づくりに生かす方向へとむけていきます。

男女共同参画推進室のポスターに記されているとおり、男女共同参画社会は、個人の選択の幅を広げる社会であり、それぞれが自律性を保ちながら、柔軟な相互扶助ネットワークを作りだす社会です。

「選べる」が育てる <sup>コミュニティ</sup>社会の展開を、弘前大学から、さらに進めたいと思います。  
ますますのご協力をお願いいたします。

# 第1章

---

「つがるネツサンス！地域でつなぐ女性人才」

# 文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成） 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」

実施予定期間：平成22年度～平成24年度

総括責任者：遠藤 正彦（国立大学法人弘前大学長）

## 【概要】

地域の就業機会が限られ、中央から地理的に隔たる地方大学において、女性研究者の研究活動に関わる困難は、大都市圏よりも大きい。しかし、コンパクトな都市構造や多様な公的生活支援などの地域性を生かし、本学の既存の諸事業を再統合することで、人才の育成が可能となる。本課題では、男女共同参画推進室の活動を起点に、女性研究者フォーラムによる世代間交流と研究の活性化、目的別タスクチームによる女性の研究力の強化と理系女性の裾野の拡大を図る。これらの相互連携によって、女性研究者が現在抱える問題に対処するだけでなく、「地域資源を有効利用するためのネットワーク作り」を中心に、地方型の研究者育成モデルを構築し、発信する。

## 機関の現状

### （1）女性研究者に関する現状及び今後の見通し

正規教員700名のうち、女性教員は93名、その比率は13.3%である（平成22年2月1日現在）。分野別では、保健学研究科以外の理系大学院で女性研究者比率はわずか3.9%と低さが際立つ。大学全体の過去3年間の新規採用者に占める女性比率の平均は17.9%であるが、その推移をみると、減少傾向が表れており、今後の意識改革の取組が必要である。一方、大学院および学部学生については、女性の減少傾向はみられず、地元で優秀な女子学生が残る傾向を考えると、研究者をめざす若手育成の可能性はある。

### （2）女性研究者支援に関する現在の取組状況

1. 男女共同参画推進室の発足（平成21年10月）。2. 学内保育園の開園（平成20年4月。年末年始以外休園なし、夜間保育対応）。3. 裁量労働制の一部導入（平成17年）。4. ハラスメント対策の再検討。5. ポジティブアクションの導入。6. 意識啓発事業の実施。

## 計画構想

### （1）女性研究者のための具体的な取組

本課題の取組としては、女性研究者フォーラムの新設とともに、目的別タスクチームを編成し、男女共同参画推進室がこれらの活動のための基盤的環境整備を行う。女性研究者フォーラムは、女性研究者の交流による情報の共有化と女子学生へのロールモデル提示を行う。目的別タスクチームは女性研究者の研究力を強めるタスクチームと、理系の裾野を拡げるタスクチームの2つからなる。前者は女性研究者の研究継続支援や研究資金獲得、研究成果公表のための支援体制作り、赴任予定教員のパートナーをフェローとして採用するシステムの検討を進める。後者は実験のできる理科教師の育成などを通じて次世代を担う人才の掘り起こしと若手女性研究者の育成を行う。

### （2）期待される効果

1) 地方の研究機関一般に応用できるモデルの発信、2) 環境整備による女性研究者の応募と採用数の増加、3) 女性研究者の新たなライフコースモデルの提示、4) 潜在化する人才の発掘と研究活動の活性化による研究レベルの向上、5) 地域に根ざした研究教育機関としての活動の活発化

## 達成目標

- 1) 女性研究者フォーラムにより、部局や世代を超えたネットワークを構築する。交流会（隔月1回）を定着させ、気軽に相談しあえる環境を作り、学内／学外交流環境を整える。
- 2) 学会や研究会への子連れ参加を可能にする学外研究交流支援を行い、研究交流を活発化する。
- 3) 弘前市や青森県および他大学とのネットワークの接合によって、実践的生活支援（育児・介護・家事）と地域の人才登用の仕組みを作る。
- 4) 公的会議の午後5時半まで終了や休日業務の削減などによる柔軟なワークプランを提案する。
- 5) 学内相談員制度やニューズレターの発行、大学出版会などを通して、若手研究者の研究資金獲得、研究成果公表支援の体制を整える。
- 6) 新規採用者における女性研究者比率を全学で16%に向上させる。女性研究者の少ない理系学部では2%以上向上させる。
- 7) 大学院進学者における女性比率を30%に向上させる。

以上を総合して、女性研究者の研究継続力強化に資するワークライフバランスモデルを構築し、全国に発信する。

## 1.2 ミッションステートメント

### (1) 計画構想の概要

大都市圏から遠隔地にある本学のような地方大学は、通勤圏内に大学や研究機関や全国規模の企業などがほとんどないため、配偶者の勤務先が確保できず、単身赴任を余儀なくされたり、結婚や出産を躊躇する研究者もある。学会や研究会への参加については、時間的・空間的な制約が活発な学外研究交流の機会を妨げている。日常的には、学部や研究科を越えた女性研究者の交流がほとんどなく、地域の情報ネットワークへの接点も持ちにくい。

本学の立地する弘前市は、コンパクトな都市構造による職住接近、子育てや介護に関わる公的支援、民間支援の選択肢が多く、適切な情報とネットワークさえ確保できれば、子育てや家庭生活の維持に関わる条件は、大都市圏とは別の利点をもつ。また地方大学には、保護者になるべく近い総合大学で学ばせようとする傾向があることなどから、優秀な人才が潜在する可能性がある。

本課題は、地方都市の利点を生かしながら、学内や地域に潜在する人才を掘り起こし、つなぎ、育成するためのネットワークを通して女性研究者支援を進める。具体的な取組としては、1. 女性研究者フォーラム、2. 目的別タスクチームを新設し、3. 男女共同参画推進室がこれらの活動のための基盤的環境を整備する。女性研究者フォーラムは、女性研究者の交流による情報の共有化と女子学生へのロールモデル提示を行う。目的別タスクチームは①女性研究者の研究力を強めるタスクチームと、②理系の裾野を拡げるタスクチームの2つからなる。前者は女性研究者の研究継続支援や研究資金獲得、研究成果公表のための支援体制作り、赴任予定教員のパートナーをフェローとして採用するシステムの検討を進める。後者は次世代を担う人才の掘り起こしと若手女性研究者の育成を行う。

### (2) 実施期間終了時における具体的な目標

①女性研究者フォーラムにより、部局や世代を超えたネットワークを構築する。交流会（隔月1回）を定着させ、学内／学外交流環境を整える。②学会や研究会への子連れ参加を可能にする学外研究交流支援を行い、研究交流を活発化する。③弘前市や青森県および他大学とのネットワークの構築により、育児・介護・家事と地域の人才登用の仕組みを作る。④公的会議の午後5時半まで終了の徹底や休日業務の削減、業務の合理化を含む柔軟なワークプランを提案する。⑤学内相談員制度やニューズレターの発行や大学出版会などを通して、若手研究者の研究資金獲得、研究成果公表支援の体制を整える。⑥新規採用者における女性研究者比率を全学で16%に向上させる。女性研究者の少ない理系研究科では2%以上向上させる。⑦大学院進学者における女性比率を30%に向上させる。以上を総合して、女性研究者の研究継続力強化に資するワークライフバランスモデルを構築し、全国に発信する。

### (3) 実施期間終了後の取組

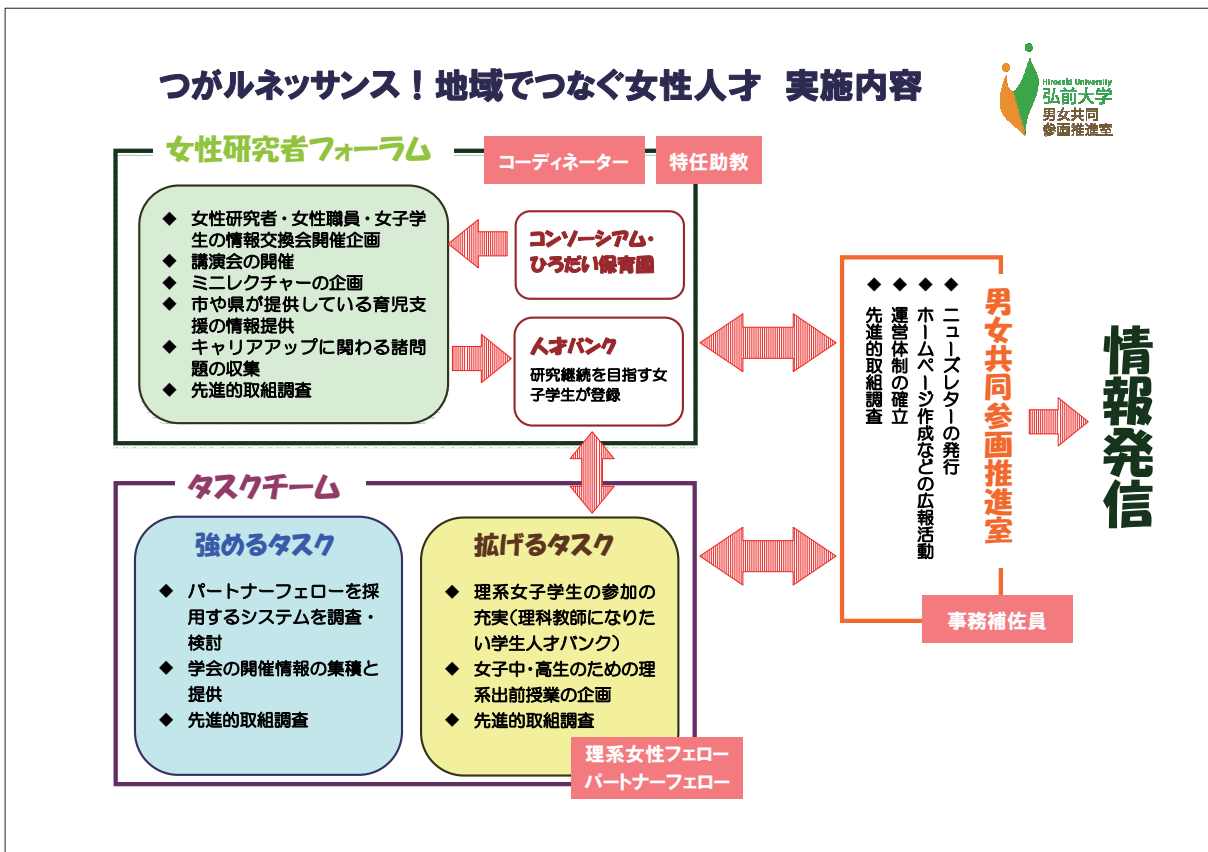
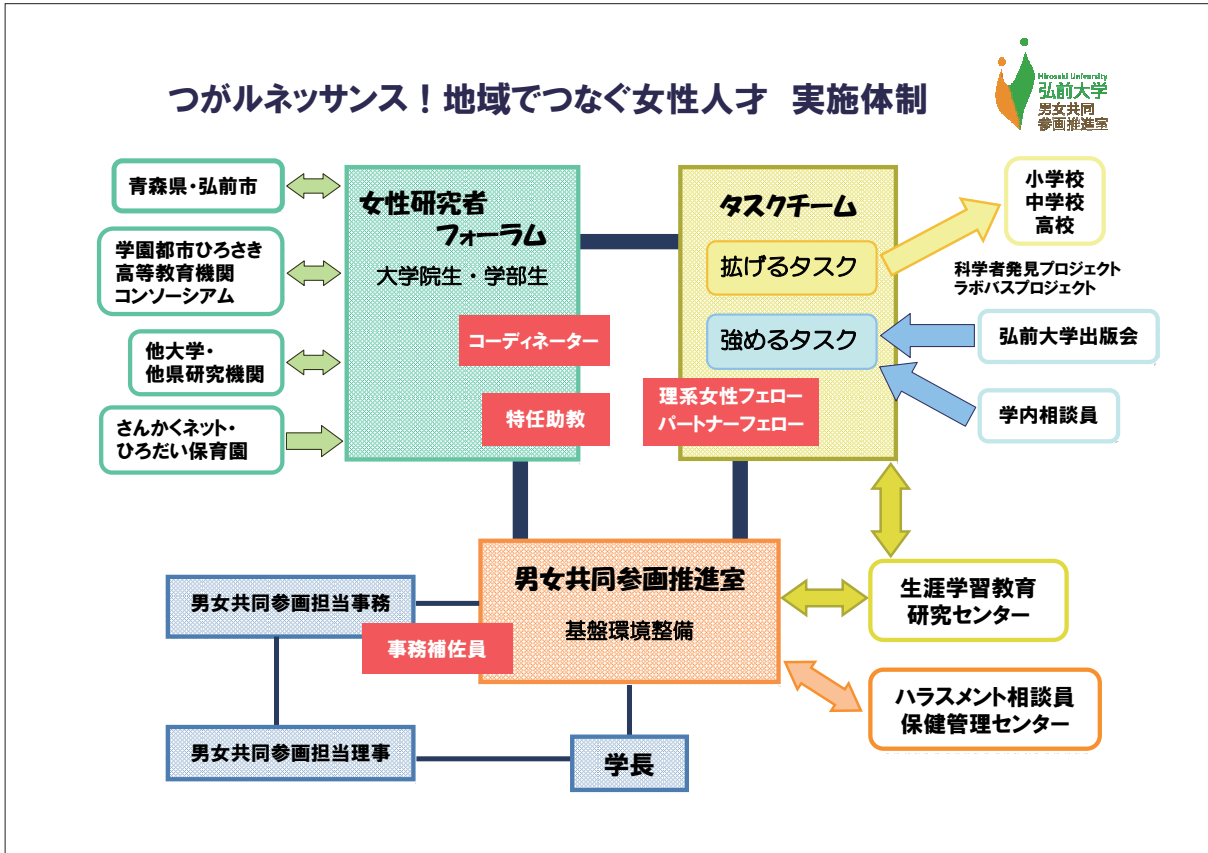
男女共同参画推進室を主体とし、理系学部・研究科とも連携しながら、2つのタスクチームの活動を継続的に発展させる。女性研究者フォーラムは、将来的には、職員も含む交流フォーラムとして発展させ、本学における男女共同参画推進の一翼を担うものとする。それによって「互いを尊重する働きやすい職場」の実現を図り、新たなワークライフバランスモデルを提供することによって、研究教育活動の持続的な活性化と有為な人才の育成に努める。また、この期間に構築された地域とのネットワークを深化させ、地域の人才育成や男女共同参画の推進に資する取組を行う。理系女性フェローなど、大学院修了者や中途退職者の研究継続支援については予算措置を必要とするが、学内予算によって継続する。



#### (4) 期待される波及効果

①地域に潜在する人才を掘り起こすことができ、津軽地方を起点とした青森県全体の再活性化（つがるネッサンス）につながる。②青森県や弘前市、「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」との連携によって、人才や情報の交流が活発化する。また、地域的規模での男女共同参画推進に資することが可能となる。③実験のできる優秀な理科教師を輩出することで、子どもたちの理系学問への興味を喚起し、全体的な理科離れ傾向を解消する道筋をつけることができる。④中・高校生などに新たなロールモデルとしての女性研究者像を示すことによって、特に理系の学問分野への一般的関心を高め、次世代を担う研究者を生むインセンティブとなる。⑤地方に立地する各研究機関にも応用できるモデルを発信することによって、全国的規模での男女共同参画の推進と研究レベルの向上が期待できる。

# 1.3 実施内容・実施体制



## 1.4 男女共同参画推進室委員名簿

弘前大学男女共同参画推進室は、弘前大学長の下に置かれ、男女共同参画担当理事がその運営に関与する。推進室は各部局等から推薦された職員（1号室員）、学長が任命する職員（2号室員）及び室長が必要と認めた職員（3号室員）によって構成されている。（表1参照）

また、平成22年度に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されたことから、特任助教等の専任職員を配置した。（表2参照）

このほか、事務局総務部人事課職員及び、複数の非常勤職員が協力して事務を行う。

表1 弘前大学男女共同参画推進室室員名簿

（平成23年12月1日現在）

室長	杉山 祐子	人文学部	教授	2号室員
副室長	日景 弥生	教育学部	教授	2号室員
	高瀬 雅弘	教育学部	准教授	1号室員
室員	照井 透	人文学部	係長	1号室員
	山田 順子	医学研究科	講師	1号室員
	井瀧 千恵子	保健学研究科	准教授	1号室員
	齊藤 慶子	医学部附属病院臨床	検査技師長	1号室員
	藤 寄 里美	理工学研究科	技術職員	1号室員
	及川 望美	農学生命科学部	係員	1号室員
	松岡 昌江	医学部附属病院総務課	課長補佐	2号室員
	長谷河 亜希子	人文学部	准教授	3号室員
	栗林 航	教育学部	係員	3号室員
	土岐 祐子	医学研究科	事務長補佐	3号室員
	岩谷 靖	理工学研究科	准教授	3号室員
	大河 浩	農学生命科学部	准教授	3号室員
	深作 拓郎	生涯学習教育研究センター	講師	3号室員

表2 弘前大学女性研究者研究活動支援事業専任職員

（平成23年12月1日現在）

鶴井 香織	特任助教
赤嶺 真由美	特任助手
山本 幸子	コーディネーター
篠崎 有香	コーディネーター

# 第 2 章

---

## 活動報告

## 2.1 北東北における男女共同参画推進に向けて「秋田宣言」

### 北東北における男女共同参画推進に向けて 秋田宣言

私たちは、男女共同参画推進の取り組みが、北東北地域に広がることをめざしています。

性別にかかわらず、自らが選択するワークライフバランスの下で、その適性と能力を十分に発揮できるように、人の多様性に配慮した環境づくりに向けて、「第2回北東北地域の大学連携による男女共同参画推進シンポジウム」参加者が相互交流や連携を深め、男女共同参画推進に取り組んでいくことをここに宣言します。

1. 私たちは、男女共同参画推進のためのネットワークづくりをめざし、これからもさらに積極的に取り組みます。
2. 私たちは、学びやすく働きやすい環境づくりをめざし、これからもさらに積極的に取り組みます。

2012年2月13日

「第2回北東北地域の大学連携による男女共同参画推進シンポジウム」  
参加者一同

この「秋田宣言」は、平成24年2月13日に秋田大学で行われた「北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウムーライフステージに応じた多様な支援の実現に向けてー」に際して、採択・公表されました。平成22年度までに北東北三県の三大学（弘前大学、岩手大学、秋田大学）の女性研究者支援モデル育成事業が採択され実施されたことを機に、相互連携によるネットワーク構築をめざすものです。

## 2.2 学内の現状調査

### 2.2.1 本学の男女比率の現状

本学教職員の総数は1,855名、そのうち女性は846名で45.6%です。大学教員は744名で女性は112名(15.1%)、附属学校園教員は103名で女性は56名(54.4%)です。

一方、特別職員・事務職員・技術職員は380名で女性は118名(31.1%)、コ・メディカル職員(医師を除く医療従事者)は628名で女性560名(89.2%)です。

この結果は、2010年4月1日の結果(以下、昨年4月の結果)と比較し、大学教員や事務系職員では女性が少ないのに対し、附属学校教員とコ・メディカル職員では女性が半数を超えているという傾向は変わりありませんでしたが、大学教員は女性の比率が2.0%増加しました。ただし、特別職員・事務職員・技術職員が1.5%減少するなど、大学全体で見ると女性比率は昨年とあまり変化はありませんでした。

図1の学部専任担当別の教員数と女性比率をご覧ください。

大学教員に占める女性比率で昨年に比べて高くなった学部等は、附属病院(+6.4%)、医学研究科(+5.3%)、人文学部(+2.4%)です。また、女性比率は、保健学研究科では41.2%(40名)と高く、理工学研究科では3.4%(3名)と低く、この結果は昨年と同様です。

教員全体で見ると、女性比率は15.1%で、昨年4月の結果より2.0%増加しました。

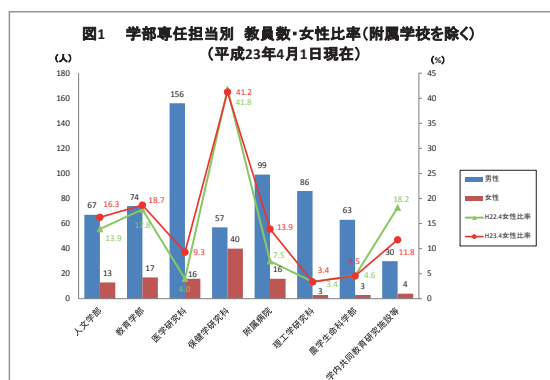


図2の学部学生数と女性比率をご覧ください。

学部学生の総数は6,114名、そのうち女性は2,667名(43.6%)です。学部ごとにみると、女性割合の高い学部は教育学部637名(63.1%)、医学部保健学科527名(61.4%)、人文学部746名(50.4%)です。

一方、理工学部、医学部医学科、農学生命科学部では女性割合が半数以下で、特に理工学部では218名(16.6%)で、他の学部比べて低い割合です。

昨年4月の結果とあまり変化はありませんが、教育学部では女性比率が3.1%減少しました。

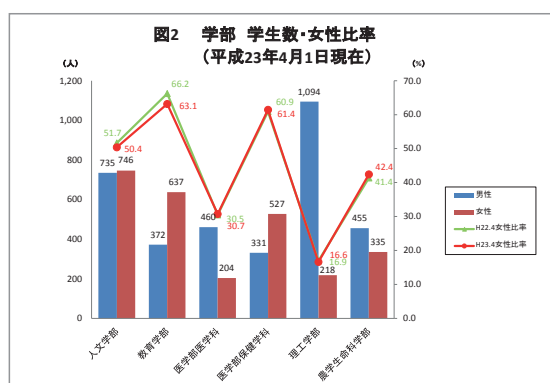
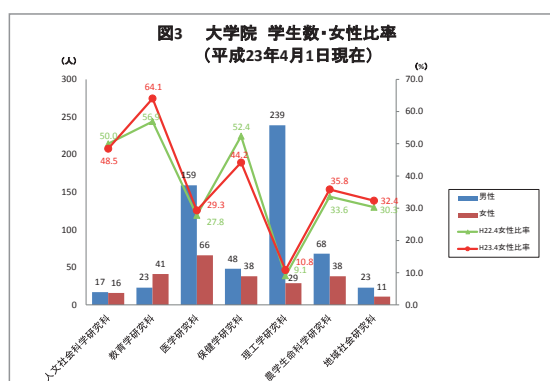


図3の大学院学生数と女性比率をご覧ください。

大学院生の総数は816名、そのうち女性は239名(29.3%)で、学部学生に比べて女性比率は低くなっています。研究科ごとにみると、女性比率の高いところは教育学研究科41名(64.1%)、保健学研究科38名(44.2%)、人文社会科学部研究科16名(48.5%)ですが、他の4つの研究科では女性比率が40.0%を下回っています。中でも理工学研究科では29名(10.8%)と他の

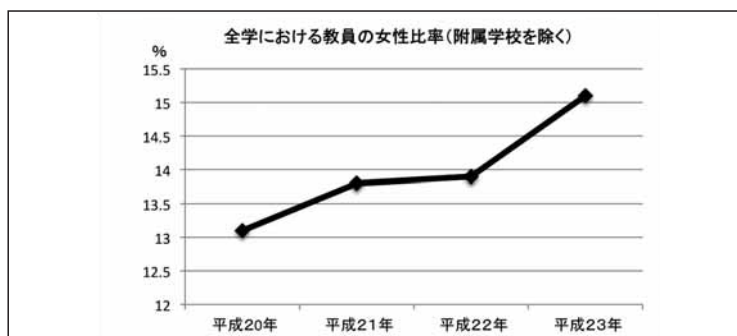


研究科に比べて非常に低い割合ですが、昨年4月の結果より1.7%増加しています。全体としては、昨年4月の結果より0.6%増加しています。

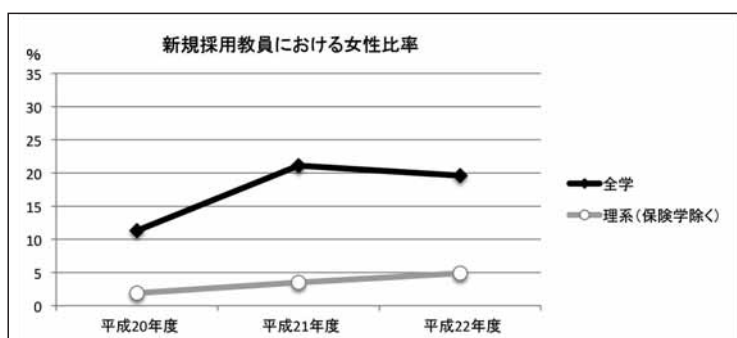
教職員全体でみると女性比率は、昨年4月の結果より0.1%減少しました。しかし、教員全体の女性比率（附属学校を除く）では、15.1%と依然として低いものの、昨年4月の結果と比べると2.0%増加しました。

この結果には教員公募の備考に記載した男女共同参画の推進をはじめとする男女共同参画の様々な取り組みの効果があらわれつつあるとも推察できますが、その評価を決定づけるには今後の推移を注視しなければなりません。また「弘前大学男女共同参画推進基本計画」（平成21年8月3日策定）に掲げている「女性教員比率を2015年までに20%に向上する」という目標達成のためには、各部局が女性教員採用に向けて、より積極的に取り組む必要があります。

## 2.2.2 本学教員に関する男女比率等の現状

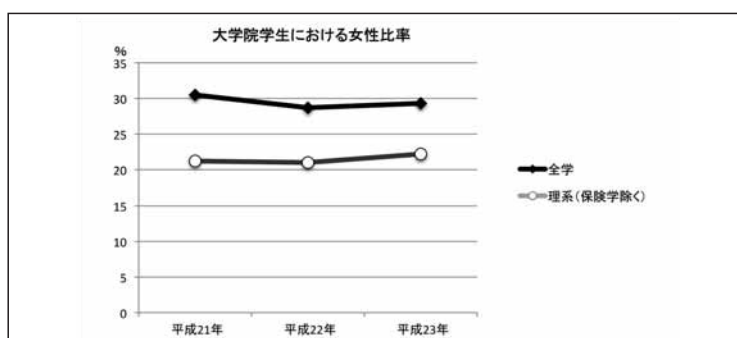


全学の女性教員比率は、平成20年度以来向上しつづけ、平成23年には15.1%に達している。増加率は、平成20年から21年にかけてほぼ1%、平成21年から22年には微増し、平成22年から23年にかけて再び1%の伸びをみせている。



常勤の新規採用者における女性比率の変化をみると、全学では、平成20年度から21年度にかけて10%近い伸びが見られる。平成21年度から22年度には前年度に比べると2%ほど減少しているが、それでも20%近くを女性が占めている。

保健学科を除く理系学部・研究科等についてみると、女性教員比率は、全学と比べるとかなり低いが、一貫して増加傾向にある。これは、医学系の女性比率が増加しつつある傾向を反映している。



ひるがえって、大学院学生における女性比率をみると、全学では30%を境に増減しており、保健学科を除く理系では、横ばいか、わずかながら増加が認められる。大学院学生と教員の女性比率に注目すると、女性教員比率は漸増しているが、学生における女性比率は、女性教員比率の2倍近くで推移しており、両者の不均衡があることが指摘できる。



## 2.2.3 弘前大学における男女共同参画の取り組みに関する各部局等アンケート

### 弘前大学における男女共同参画の取り組みに関する 各部局等アンケートについて

実施期間：平成24年2月14日～3月2日

対象部局等：全18部局

回答を得た部局等：16部局

本学では、すべての教職員と学生等が教育・研究・就労・修学と、家事・出産・育児・介護、地域の諸活動への参加を両立できるよう（ワーク・ライフ・バランス）、環境整備や支援等を積極的に進めることにしている。そこで、それらをすすめるために各部局等における仕事の効率化や会議の開催時刻等の適正化に向けた取り組み状況を調査した。以下に、その調査結果の概要を報告する。

#### 【概要】

#### 1. 仕事を効率化するための取り組み

仕事を効率化するために何らかの取り組みを行っているとは回答した部局は11部局、行っていない部局は5部局であった。仕事を効率化するための具体的な取り組みとして、コンピューターを活用した工夫を行う部局が多かった。一方で会議開始時刻、終了時刻の明示および報告の要約などを工夫している部局は少なかった。

#### 2. 各種会議や委員会の開催時間

全ての会議等を勤務時間内に開催している部局は7部局、勤務時間内と勤務時間外に開催している部局は9部局で、すべての会議等を勤務時間外に開催している部局はなかった。勤務時間内に開催する会議回数は1回と答えた部局が多く、4部局であった。残りの3部局はおおむね3～4回の会議開催であった。勤務時間内と勤務時間外に会議を開催している部局では、勤務時間内の開催は1～数回/月、勤務時間外は1～数回/月が多かったが、勤務時間内16～30回/月、勤務時間外36回/年と回答した部局もあり、部局によって会議回数が異なることがわかった。

#### 3. 勤務時間外に会議を行わないための工夫

勤務時間外に会議を行わないための工夫について回答した部局は11部局であった。最も多い工夫は「事前の都合調べ」で、8部局で実施していた。他には「年間スケジュールに組み込む」などを4部局で実施していた。「定員削減により一人の仕事量が増えているため、勤務時間内での会議日程調整はより困難になっている」という意見もあった。

#### 4. 会議の開始時刻と終了時刻の明示

会議の開始時刻と終了時刻を明示している部局は3部局であり、ほとんどの部局では時間の明示はされていなかった。しかし、仕事を効率化するための工夫として時刻を明示している部局もあった。

## 5. 男女共同参画に向けた取り組み

男女共同参画に向けた具体的な取り組みを記載したのは7部局であり、6部局は「特になし」という記載であった。具体的な取り組みとしては、「教員公募要領で女性研究者の積極的な採用を明記する」が3部局、「男女の区別なく仕事に取り組んでいる」が3部局であった。

以上のことより、仕事を効率化するための取り組みを行っている部局は半数以上であった。しかし、勤務時間外の会議が多く、開始時刻や終了時刻を明示している部局は少なかった。また、各部局とも男女共同参画の具体的な取り組みが少ない状況であることが明らかになった。

年度末のお忙しい時期に、ご回答を頂きました部局長等の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

### 【詳細】

〈質問1〉 貴部局では、仕事を効率化するための取り組みを行っていますか。

1. 行っている・・・11部局
2. 行っていない・・・5部局

〈質問2〉 質問1で「1. 行っている」に○をつけた部局は、具体的な例をあげてください。

1. データ管理やデータ共有を行い、データのやりとりを簡素している。(4部局)
2. 「スケジュール管理ソフト」などコンピュータシステムを活用している。(3部局)
3. ノー残業デーを設け、優先順位を意識して業務を行っている。(2部局)
4. 業務量の平準化を行っている。(2部局)
5. 事前打ち合わせにより業務の効率化を図っている。(2部局)
6. 内容がプログラムに対応できないことには検討会を設け、随時検討を行い、プログラム改善、効率的作業ができる環境づくりを進めている。
7. 会議等の開始及び終了時間を明示と、勤務時間内での会議の終了を徹底している。
8. 会議報告時、時間短縮と内容の周知徹底のため、要約した報告書の提出の協力依頼をしている。
9. 学部運営会議の構成員などの体制を見直している。
10. 議題が少ない会議等は紙上会議を開催している。
11. 離れた地域との講義や会議では、教職員が移動しなくてもよいよう研究討議システムなどを活用している。

〈質問3〉 各種会議や委員会の開催時間についてお尋ねします。

1. 全ての会議や委員会（以下、会議）は勤務時間内に開催している・・・7部局
2. 勤務時間内に開催している会議もあるが、勤務時間外（17:30～）に開催しているものもある・・・9部局
3. 全ての会議は勤務時間外に開催している・・・なし

〈質問4〉 質問3で1と3に回答した部局にお尋ねします。会議や委員会の開催回数を記入してください。

1. 勤務時間内の会議や委員会の開催回数  
月におおむね1回程度・・・4部局  
月に3～5回・・・3部局

〈質問5〉質問3で2に回答した部局にお尋ねします。勤務時間内と時間外に行っている会議の開催回数を記入してください。

- ①勤務時間内に行われている会議は、月におおむね1～数回や年4回という部局があった一方で16～30回程度という部局もあった。
- ②勤務時間外に行われている会議は、月におおむね1～数回という部局が多いが、年36回という部局もあった。

〈質問6〉勤務時間外に会議を行わないようにするための取り組みを行っている場合は、具体的な例をあげてください。

回答部局：11部局

1. 事前都合調べを行い勤務時間内で開催するよう努力している。(8部局)
2. 年間スケジュールに取り組みこむなどで、計画的に会議を開催している。(4部局)
3. 会議開始時間の周知と終了時間を明示し、勤務時間内で会議が終了するようにしている。
4. 会議成立要件(定足数)を満たした場合は開催する。
5. 定員削減により教職員各個人の業務量が年々増大しているため、今後も会議開催期間の調整は難しくなる一方である。
6. 会議資料を精査している。
7. 議題により紙上開催としている。
8. 日中の早めの時間開始に努める。

〈質問7〉会議や委員会を開催するにあたり、開催通知等で終了予定時刻を明示していますか。

1. している・・・3部局
2. していない・・・13部局

〈質問8〉貴部局の男女共同参画に向けた取り組みについてお尋ねします。貴部局で、男女共同参画に向けた取り組みを行っている場合は、具体的な例をあげてください。

回答部局：13部局

1. 特になし・・・6部局
2. 教員公募要領で、女性研究者の積極的な採用を明記している。・・・3部局
3. 性別に関係なく仕事に取り組んでいる。・・・2部局
4. ハラスメント対策のポスターを校舎内の随所に掲示している。
5. 他学部生からのハラスメント相談にも応じている。
6. パートナーフェロー制度を推奨している。
7. 男女共同参画推進室が主催する講演等への学部生への参加の推奨と意識啓発を行っている。

## 2.3 学外の現状調査

### 2.3.1 平成23年度女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム

#### 女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム報告 女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現 ～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～

開催日：平成23年11月1日（火）・2日（水）

場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎

参加者：杉山祐子・鶴井香織・赤嶺真由美

参加機関：52機関



#### 1) プログラム

##### 11月1日（火）

[午前] グループディスカッション（各地区グループごと）

[午後] 挨拶（筑波大学長、内閣府男女共同参画局長）

施策の説明（文部科学省科学技術・学術政策局 基盤政策課長）

グループディスカッション成果発表：研究補助者をつくる取組み有効

コメント（JST 科学技術システム改革プログラム主管）

閉会

##### 11月2日（水）

[午前] 効果的な取組事例発表

①九州大学：女性枠設定による研究者支援採用とその成果、ポイント制管理  
優秀な工学系応募者／採用者の急増（女性の応募があることを実証）

②東京農工大学：中規模大学でも可能な独自養成研究者採用計画  
ポジティブアクション1+1、テニュアトラックと同時採択で進行

③東北大学：ハードリングからジャンプアップへ事業継続拡大、  
自己資金で男性も支援対象者に  
次世代支援：サイエンスエンジェル（大学院生の育成にも成果）

④北海道大学：長期的取組としての目標設定、20% by2020

⑤名古屋大学：10年以上にわたる男女共同参画の蓄積+モデル事業、学童保育に特徴

[午後] サイドイベント テーマ別事例発表

①京都大学：合同シンポジウム（2010）を振り返って

次回に向けて～開催地は文科省から参加しやすい関東がよいか

②広島大学：広島大学における学童保育

長期休暇中の4年生以上対象、空き講義室+レンタル畳

教員免許を持つ大学院生が学童指導員に

- ③東邦大学：私大における病児保育の設立と運営について  
保育支援を希望するナースを「非常勤研究生（＝女性研究者）」に  
隔離室設置費用450万円
- ④岩手大学、東北大学：非常時における男女共同参画～震災を振り返って～  
復旧・復興計画に女性の視点を  
保育園の避難訓練・教員の燃え尽きを防ぐ取組の重要性
- ⑤九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea\*）：  
地域におけるネットワーキングについて  
『実務者が語る！女性研究者支援×ネットワーキングの醍醐味』  
産業技術総合研究所：ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）  
全国17機関、イベント相互参加、各機関担当者の懇話会、  
奈良先端大学：けいはんな女性研究者ネットワーク  
複数の市町村、企業研究者を含むネットワーク  
愛媛大学：四国女性研究者ネットワーク  
四国5大学学長による男女共同参画推進宣言  
担当者同士の情報交換、担当者と研究者の交流が活発になる
- ⑥筑波大学：ポスドク・キャリア支援について  
卒業後・ポスドク終了後のビジョンを、自己PRセミナー、  
任期付き研究者キャリア支援（アカデミックメンター）  
講評（科学技術振興機構 科学技術システム改革事業推進室長）  
閉会

\*Q-wea：九州大・佐賀大・長崎大・熊本大・大分大・宮崎大・琉球大

## 2) 重要ポイント

- ①「女性研究者数の増加」目標が明確化された
- A) 理系、とくに理、工、農が焦点化されている（医学系はすでに進みはじめているとの認識）  
（第3期科学技術基本計画の目標値（自然科学系全体25%；理学系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%）は未達成
- B) 国際競争力を意識化 第4期科学技術基本計画
- C) 大学評価項目への導入
- ②各大学も強く意識し、主体的な動きを強めている
- A) 大学院受験者数の確保
- B) 女性研究者支援、男女共同参画の推進状況を見て大学を選択する傾向もある（とくに医系）
- C) 各大学さまざまな取り組みを進めている
- ③女性研究者支援モデル育成事業、女性研究者研究活動支援事業の規定変更等について
- A) 支援対象者の拡大：育児だけでなく、介護も含む（「ライフイベント」と表現）
- B) 専攻分野を理系および文理融合だけでなく、文系にも拡大した
- C) 男性も視野に含まれる

### 3) 全体的な進捗状況と本学の取組みの特徴

- ①大学等機関間ネットワークの構築と情報の共有化（DSO 産業技術総合研究所発、九州地区、北東北大学間（秋田大学、岩手大学、弘前大学、岩手医科大学）
- ②本学の取組みの特徴
  - A) パートナーフェロー（地方大学の取組み例のひとつ、岩手大学は「両住まい手当」）
  - B) 学内諸取組みへの接続による仕組みづくり（事業終了後も小さな財源で持続性を確保）
  - C) 地域NPO、行政等との連携
  - D) 学会等地元開催支援（学会託児等）
  - E) 特任教員の研究活動



## 〈報告要旨〉

# 弘前大学「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」

### 【基本コンセプト】

「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」は、「万能の人」を理想としたルネッサンス期になぞらえて、地方型のワークライフバランスモデルを提示し、才知ある人々（人才）を育成しようという基本コンセプトに基づいて策定された。学内外にすでにある地域資源を集めてネットワークを作り、有用な情報を使いやすく再編成することによって、持続可能な取組みにすることをめざす。

### 【実施体制】

「女性研究者フォーラム」に加えて、「拡げるタスク」「強めるタスク」という2つのタスクチームを新設し、男女共同参画推進室とつなぐ実施体制を計画した。「女性研究者フォーラム」では、世代や部局を超えた女性研究者の交流を通して、キャリア形成や生活関連の体験的情報等が共有される。2つのタスクチームのうち、「拡げるタスク」では、理系の裾野の拡大と次世代育成のためのしくみを作り、「強めるタスク」では、女性研究者の研究力を高め、研究継続を支援するしくみを作る。男女共同参画推進室は、意識啓発や現状の改善に向けた基盤環境整備を担うとともに、地域連携事業等の情報を学内外に発信する。

### 【つがる・つながる平成22年度】

平成22年度は、「つがるネッサンス」の始動によって、散在していた地域資源相互のネットワーク化が進み、「つがる・つながる」年になった。

#### ①女性研究者フォーラム

気軽なお茶会形式の集まりによって学部や世代、立場を超え、他大学からの参加者も交えて、互いの生の声が聞こえる出会いの場が生まれた。これらの声を踏まえて、出産・育児・介護等に関わる支援制度をわかりやすい一覧表にし、ウェブで公開した。さらに、弘前市高等教育機関コンソーシアムとの協力関係が確認され、今後の活動に道筋をつけた。

#### ②拡げるタスクチーム

一般向け野外イベントの実施を通して地元NPOとの連携が可能になったほか、全学の学部研究科代表からなる「弘前大学理科離れ対策支援専門委員会」の発足によって、既存の諸取組みの有機的関連づけが行われた。また情報の再編成の取組みとして、学部ごとに周知していた学内イベント情報を統合したカレンダーを作成し、学生に配布した。

#### ③強めるタスクチーム

研究継続支援の取組みとして、家族と一緒に赴任できる制度（パートナーフェロー）の公募と研究業績発表支援ニーズの調査を実施した。また、研究力向上のための取組みを企画・立案・実施する全学レベルのタスクチームを発足させた。

#### ④基盤環境整備

a) 広報・意識啓発活動—広報活動の一環として、ロゴマークとポスターを選定した。ニューズレターの定期的発行も継続しており、学内の認知度は高まっている。また、稲葉カヨ京都大学女性研究者支援センター長をお招きして開催したキックオフ講演会には多数の来場者があり、学内の意識啓発が促された。

b) 現状把握と提言—ハラスメント相談体制の改善への提言を行ったほか、次の2つの調査を実施した。

i) 女性研究者の比率向上に向けた取組みに関する部局長対象アンケート調査

ii) 全教職員を対象とした男女共同参画推進についての意識調査

c) 相互連携—秋田大学、岩手大学、弘前大学を中心とする「北東北地域の大学連携による男女共同参画推進シンポジウム」を開催するとともに、会場となった岩手大学において「岩手宣言」を採択し、今後の活動への連携体制が整った。

女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人才

くつがる つながる 平成22年度

**基本コンセプト**

- 津軽から地方型モデルの提案
- 「万能の人」を理想とし、地域性を生かしたワークライフバランスモデルを提案
- 才知ある人々=人才の育成

**女性研究者フォーラム**  
～部局・世代を超えたネットワークづくり～

- 「学部を超えて女性教員とお茶をしましょ!!」の開催
  - 第1回 2010年10月29日開催  
I. 日本で感じたジェンダー  
II. ニュージージーランドの男女共同参画政策
  - 第2回 2010年12月1日開催  
「女性数学者の現状(良いこと悪いこと)」
  - 第3回 2011年2月15日開催  
「生命科学研究こぼれ話  
～基礎から臨床まで～」
- 「出産や育児・介護を行う教職員への支援一覧」ウェブサイトで公開
  - 休職等の制度一覧(出産・子育て)
  - 休職等の制度一覧(介護)
- 「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」との協力関係の確認

**拡げるタスク**  
～次世代裾野拡大と「実験できる理科教師」の育成～

- 地元 NPO との連携で「早春の里山ウォーキング」実施  
2011年3月19日開催  
場所: 大鱈町
- 「弘前大学理科離れ対策支援専門委員会」の発足
- 学内イベントカレンダー作成

**強めるタスク**  
～研究スキルアップと継続の支援～

- 家族と一緒に赴任できる制度「パートナーフェロー」の公募
- 研究成果発表支援のためのニーズ調査として女性研究者に対する「論文投稿費」・「英文校閲費」の助成を実施
- 女性研究者の研究力向上事業の企画・立案・実施を目的としたタスクチームの発足

**基盤環境整備**

女性研究者フォーラム、拡げるタスク、強めるタスク、基盤環境整備(男女共同参画推進室)の連携。

**基盤環境整備**

- 広報・意識啓発活動
  - 「つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人才」ロゴ&ポスターの選定
  - ニュースレター「さんかくつうしん」発行  
Vol.2 (2010年7月発行) Vol.3 (2010年10月発行) Vol.4 (2011年3月発行)
  - Webサイトの開設  
2011年3月オープン
- キックオフ講演会  
「学びやすく働きやすい大学へ」開催  
2010年10月8日開催  
講師: 稲葉カヨ京都大学女性研究者支援センター長
- 現状把握と提言
  - 学内の意識調査の実施
    - 弘前大学における女性研究者の比率向上に向けた取り組みに関する部局長アンケート
    - 弘前大学男女共同参画推進に関する意識・実態調査
  - ハラスメント相談体制の検討と提言
- 相互連携
  - 北東北地域の大学連携による男女共同参画推進シンポジウム開催と「岩手宣言」採択  
2011年3月3日開催  
場所: 岩手大学総合教育棟北桐ホール

弘前大学男女共同参画推進室  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1 総合教育棟1F  
TEL: 0172-39-3888 FAX: 0172-39-3889  
E-mail: equality@cc.hirosaki-u.ac.jp  
URL: http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/

つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人才  
URL: http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/



## 2.3.2 国立女性教育会館 平成23年度大学職員のための男女共同参画推進研修

### 国立女性教育会館主催 平成23年度大学職員のための男女共同参画推進研修報告

日 時：平成23年12月8日（木）・9日（金）  
場 所：NVEC（国立女性教育会館）  
参加者：宮崎龍平（人事課）・日景弥生（教育学部）

#### 【12月8日（木）】

##### 1. 講義「大学における男女共同参画を推進するためには」

講師：国立女性教育会館 理事長 内海 房子

リーダーシップやマネジメントの視点を交え、大学における男女共同参画を推進するための基礎となる考え方について説明された。今後の推進のために、まずは「202030」\*1の目標の共有や、共同参画推進の意識の向上が必要である。

\*1：「2020年までに、指導的地位の女性が占める割合を、少なくとも30%になるよう期待する」という国の施策

##### 2. 関係省庁説明と課題整理「大学・研究機関における男女共同参画推進の課題と取組の方向性」

講師：文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 課長 板倉周一郎  
コーディネーター：沖縄科学技術大学院大学 副学長 久保 真季

諸外国と比較して日本の女性研究者の割合が低い点や、博士課程（後期）の女性割合に比べ女性教員の割合が低いといった日本の現状を紹介したうえで、特別研究員（RPD）や女性研究者研究活動支援事業などの現在の女性研究者支援の主な施策を説明した。

##### 3. 「韓国における女性研究者政策について」

講師：梨花女子大学数学科 教授 WISET センター長 Heisook LEE

近年、韓国では国の施策としてSTEM分野\*2における戦略、4Wプロジェクト\*3のプログラムを行っており、女性研究者比率で日本を追い抜いている。しかし、欧米と比べ女性の登用は進んでいないため、政策の方向性の検討などが今後の課題として挙げられる。

\*2：Science、Technology、Engineering and Mathematicsの4つの分野

\*3：WISE、WIE、WATCH21、WISTの4つのプロジェクトのこと。理工学部門における女性登用プログラム、ジェンダー意識の教育プログラム、女性研究者を教育者にするためのプログラム、女性のネットワークづくり・教育訓練に関するプログラム

##### 4. 「女性の活躍推進・WLB（ワーク・ライフ・バランス）推進と大学の役割」

講師：シカゴ大学ハンナ・ホルボーン・グレイ記念特別社会学 教授 山口 一男

シカゴ大学におけるダイバーシティやWLB推進の施策を紹介した。諸外国と比べ日本では組織の枠組や、正規・非正規といった雇用形態に対する考え方が、伝統的男女の分業を強化しており、女性の職業キャリア進展を阻んでいる側面がある。男女に限らずだれでも多様な働き方ができるような施策の検討・実施が必要である。

【12月9日（金）】

## 5. 講義「ドイツの女性研究者政策」

講師：バーバラ ホルスト ドイツ日本研究所専任研究員

今日のドイツの女性研究者の状況について、科学分野等における共同参画の促進のための取組が紹介された。

ドイツでは、女性の大学入学者が少なく、特に自然科学系分野では女性が少ない。これが、自然科学系の女性研究者が少ない1つの要因である。それを克服するために、WLBなどの女性研究者政策を実施しているが、一時的な支援の効果は短期的であるため、長期的な支援が必要と考える。そのため、ドイツでは女性研究者を増やすためにはかなりの時間が必要と考える。

## 6. ベストプラクティス研究「女性が活躍する職場への取組」

### 1) 事例① NEC ソフト株式会社

NEC ソフト株式会社

ITトレーニングセンター兼人事総務部

シニアマネージャー

小々馬 恵

女性社員にエンジニアとして長く活躍してほしいと願い、実態把握から課題を明確にし、それを踏まえ2007年度より「女性活躍推進活動」を本格的に開始した。

「女性活躍推進活動」の具体的施策として、①3つの要因（WLB、ロールモデル、管理職のマネジメント）に着目した活動、②指針の設定である。この結果、女性社員の退職率の減少、育児時短勤務者や育児休職者の増加、女性社員の昇格率の向上などの成果がみられた。今後は、女性社員の挑戦的仕事の経験を増やすことなどが課題である。

### 2) 事例② 石堂硝子株式会社

石堂硝子株式会社

業務部課長

奥畑 桂子

石堂硝子では、①女性社員の積極的採用と職域の拡大、②女性管理職登用を促すLM（leading member）の創設、③全員参加のスタッフミーティングの開催、④WLBに取り組む“for my プロジェクト”の活動を行っている。

最近の取組である④“for my プロジェクト”の活動は、社員の負荷をみんなで分かち合える会社風土を作ること、製品制作のラインスタッフをこの活動に巻き込むこと、WLBについて語り自分の人生について語りすることである。これにより石堂硝子は、H21「大阪市きらめき企業賞」を受賞した。

## 7. コース別ワークショップ

### 分科会1「男女共同参画意識を学内に浸透させるために」

事例①「広島大学における構成員一人一人の個性と能力が十分発揮できる組織を構築するための具体的な取組」

広島大学大学院理工学研究科 教授

相田美砂子

広島大学では、H16から学内の男女共同参画を推進するために、教職員の意識改革や基盤的環境整備を進めるための仕組みを構築しており、その経緯と重要な事項について説明した。

## 事例②「元気！生き生き女性研究者公立大学モデル」

大阪府立大学女性研究者支援センター  
コーディネーター  
巽 真理子

大阪府立大学では、H24から理系を中心とした大学として再編成する。しかし理系の女性研究者は29名(5.9%、理系の女性大学院生は47名(21.7%))である。そのようななかでミッションステートメント達成に向けて、推進体制の整備と、4つの柱を掲げて全学的な取組を行うとともに、地域連携を積極的に推進している。

この後、グループに分かれて男女共同参画推進のための問題や課題をあげ、課題解決の方策を探った。

## 分科会2【大学におけるワーク・ライフ・バランス】

### 事例①「さらに羽ばたく女性研究者たち 研究支援とワークライフバランス～3年間の取組報告」

東海大学 WLB 推進室 特任助教 谷 俊子

東海大学ではH20に「女性研究者支援モデル育成」プログラムに採択され、WLB 支援ルームを開設した。3年間で行った、女性研究者へのカウンセリングや保育支援体制の強化などの取組を紹介し、その結果、出産の増加や男性教職員の育児への関心の増加などが見られた。

### 事例②「山形ワークライフバランス・イノベーション」

山形大学男女共同参画推進室 チーフ・コーディネーター 准教授 木村 松子

山形大学では、H21に男女共同参画推進委員会を設置し、その後基本計画の策定、セミナーの開催、研究継続支援員制度の創設などの取組を行ってきた。様々な取り組みの結果、研究者カップルの働き口や産休等の代替要員確保の手立てなど問題点も見つかり、今後さらなる推進のための活動が必要である。

### 講義「大学におけるワーク・ライフ・バランス支援」

内閣府男女共同参画会議 専門委員 渥美 由喜

日本は、男女共同参画の制度・意識共に諸外国に比べ特に遅れている。様々な業界の中で大学や研究機関は最も遅れている業界の一つである。大学における WLB が推進されると、人材育成、学術論文の充実、社会への組織モデルの提示など正の効果が見込まれる。大学における WLB の推進のための管理職マネジメントや業務の効率化の施策などを紹介された。

## 2.3.3 第2回四国女性研究者フォーラム

### 第2回四国女性研究者フォーラム報告 「若手の活躍促進～四国のマリー・キュリーを育てよう～」

日 時：平成24年1月27日（金）

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：藤寄里美・藤田悦子・村上敬子

対応者：女性未来育成センター センター長 小島秀子・特定教員 前野恵美

#### 1. 基調講演「女性研究者の活躍に向けて」

講演者：文部科学省高等教育局長 板東久美子

最初に男女共同参画の理念と必要性を説明され、日本における男女共同参画の現状と課題を述べられた。各国別の女性の就業継続と少子化、固定的役割分担意識、男性の家事・育児時間の世論調査を基に、日本で推進すべき事柄や法制度の確立の必要性を説かれた。

#### 2. 特別講演「世界化学年と女性研究者」

講演者：神戸大学特別顧問 相馬 芳枝

世界化学年の起源とイベントの一環である女性化学賞の授賞式の様子を紹介された。その後、ご自身の研究内容や研究によって実現したい事等をお話された。神戸大学での女性研究者育成のための取組を説明され、科学技術の発展には多様性が必須であり、女性の参加は多様性の指標であると締めくくられた。

#### 3. パネルディスカッション「若手研究者が輝く大学とは」

パネリスト：香川大学 教育・学生支援機構 特命助教 西本 佳代  
徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教 真田 純子  
鳴門教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 梶井 一暁  
高知大学 教育研究部 准教授 島村 智子  
愛媛大学 沿岸環境科学研究センターグローバル COE 准教授 濱村奈津子

コメンテーター：文部科学省高等教育局長 板東久美子

コーディネーター：愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター 教授 土屋 卓久

最初にパネリストの経歴や研究内容、大学に要望することが紹介された。その後、パネリストが大学の現状や研究環境を改善する策について意見を出し合った。

**西本**：2008年から香川大学に非常勤教員として勤務しています。大学への要望は、常勤のポスト獲得・育児支援・介護支援です。高学歴ワーキングプアの現状や、研究者としても母親としても完璧な女性であり続けなければならない「パーフェクト・マザー」圧力があることを知って欲しいです。

**真田**：イタリア留学がきっかけで景観工学に興味を持ち、研究者の道を選びました。大学への要望は、研究成果の評価方法と事務手続の簡素化です。短期間で結果を出せない研究の場合、論文数で評価されると不利になるので、研究に合った評価法を取り入れて欲しいです。

**梶井**：育児休業を取得したのでこのフォーラムに招待されたのだと思います。育児休業取得には、研究

室の教授や同僚の教員の理解が必要不可欠だと実感しました。育児休業を取得すると収入が減るので、金銭面のことでもハードルが高いのではないかと思います。

**島村**：修士学生時代に筆頭著者で論文を発表する機会に恵まれ、研究の楽しさを知り研究者の道を選択しました。年度の途中で着任したのですが研究費は配分されず、同じ研究室の教授の研究費を使わせてもらいました。着任直後には研究費配分等手厚い支援を求めます。

**濱村**：米国で研究を続けていたので、日本の大学教員の業務を理解するのに時間が掛かりました。科研費の申請書の書き方も知らなかったので、同じ研究室の教授に申請書を見せてもらいました。着任時にはある程度のサポートをお願いしたいです。

## 2.3.4 名古屋大学学童保育所視察

### 名古屋大学学童保育所視察報告

日 時：平成24年2月8日（水） 13:00～

場 所：名古屋大学男女共同参画推進室

学童保育所「ポピンズアフタースクール」

訪問者：鶴井香織、深作拓郎

対応者：男女共同参画推進室 助教 榊原千鶴先生

ポピンズアフタースクール 主任指導員 加藤恵子さん

#### 視察概要

##### 1. 施設について

学童保育所は、同大学が運営する保育園の2階に増築・設置されている。「安心・安全を可能な限り確保する」という観点から、施設の位置を公表をしておらず、もちろん施錠等のセキュリティも厳重である。

2階の居住スペースの面積は約120㎡、子どもたちの居住スペース+ランドセルをしまうロッカーのほか、キッチン、洗濯場、シャワールーム、人工芝のテラス85㎡がある。

施設面積：室内120㎡ テラス85㎡

備 品：ロッカー、書籍（児童書、図鑑、マンガ等）、洗濯機、おもちゃ、パソコン、天体望遠鏡、電子ピアノ、その他

##### 2. プログラム

###### 1) 1日のプログラム

登 園：タクシー・徒歩等にて登園。

各自名札にあるバーコードをパソコンに入力する。登園した記録がパソコンに残るほか、保護者にメール配信される。

各自「宿題・自主学習タイム」

16:00～：おやつ

16:30～：イベント（ヨガ・体操・習字など）・自由遊びタイム

～19:00：退園 延長保育は21時まで、事前に申し込めば夕食提供も可

退園する際は、登園時と同様にパソコンにバーコードを入力する

保護者によるお迎えが基本

※長期休業時（夏休み等）は、別途スケジュールを組む

###### 2) 子どもたちの様子、指導員の指導方法について

イベントプログラムでは、近隣の方や大学関係者、学生サークルに依頼して実施している（有償ボランティア）ほか、毎日のプログラムでは当番制（縦割り班）を敷いている。また、宿題の時間も取り入れており、「生活のリズムづくり」が強く意識されている。

このほか、学内の体育館やグラウンドなども優先的に使用することができる（事前申込が必要）など

の配慮もなされている。

### 3. 利用者に関すること

近隣大学の教職員の子供なら、1割高の料金で利用できる。一般の人でも、名古屋大学関係者の紹介があれば利用できる。現在、レギュラー（毎日）利用が18名（うち学外3名）、スポット利用が39名（うち学外10名）となっている。レギュラー利用者には教員が多く、スポット利用者には事務職員が多い。対象者は6年生までの小学生である。

### 4. お迎えタクシー

タクシーでのお迎えは大学から半径2km圏内限定で、その中に小学校9校が含まれている。迎えに行くのは保育業者が契約したタクシー（子育てタクシー協会に加盟しているタクシー会社）である。子供が安心するよう、運転手を出来るだけ固定するような配慮もしている。学校ごとや学年ごとに終わる時間が異なる場合の調整方法についても次のように熟考されていた。お迎えには複数のタクシーを使い、例えば5限目で終わる子供たちを学童保育所まで送り届けた後、再度6限目で終わる子供たちを迎えに行く。このとき、学校の終わる時間が近い学校の子供たちは、一括して一筆書きでお迎えする。待ち時間が生じる場合は小学校内（トワイライト）で待機してもらおう。トワイライト利用の申し込みは保護者自身が行っている。配車計画は、子供たちがもってくる「学校便り」をもとに行事などを把握して立てるとのことだった。

## 2.4 意識改革

### 2.4.1 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」 第3回講演会

#### 弘前大学「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」第3回講演会開催 日米の教育研究制度の比較と女性研究者の役割 ～医学生物学を中心に～

日 時：平成23年6月17日（金） 13:30～15:00

会 場：弘前大学創立60周年記念会館 コラボ弘大8階 八甲田ホール

講 師：アメリカ ノースウェスタン大学医学部分子薬理学／生物化学科 農学博士 榎橋 敏夫氏

#### 【講演内容】

この講演会は、昨年、女性研究者研究活動支援を目的として文部科学省に採択され、現在さまざまな企画を展開している「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」事業のひとつとして開催され、当日は、教職員や学生を中心に、70名あまりが参加しました。

講演会に先立ち、杉山祐子弘前大学男女共同参画推進室長が挨拶し、「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」事業の意義と、今回の講演会の趣旨について説明しました。

続いて、ノースウェスタン大学の榎橋敏夫教授が「日米の教育研究制度の比較と女性研究者の役割～医学生物学を中心に～」と題して講演されました。まず、約50年間にわたるアメリカでの教育研究活動経験をもとに、大学の制度や研究者の育成について、様々な角度から日本とアメリカの違いを説明されました。アメリカでは大学院への入学は非常に狭き門である一方で、その後一定の研究生生活は保障されること、長く厳しいプロセスを経て博士号を取得するまでは研究者として認められないことなどが紹介され、それらを通して、日本の大学教育が抱える課題を知ることができました。

また、女性研究者比率の伸びや分野別の状況がデータで示され、アメリカの研究分野における男女共同参画の現状理解に役立ちました。

講演の最後に、「ROAD TO A SUCCESSFUL SCIENTIST」と称して、研究者として成功するための

11のポイントが紹介され、「Rise to the challenge」など、次々と示される具体的な指針に、会場を埋めた参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演終了後には、榎橋教授を囲んでフリートークの時間が設けられました。留学を目指す学生から「留学するときの注意点は？」との質問が出たり、教員から、今どきの学生の学習意欲についての疑問が投げかけられたり、米国の教員評価の方法について質問がされたりと、予定時間ぎりぎりまで活発に意見交換が行われました。

榎橋教授は、最後に、「研究者として広い視野を持ち、いろいろな分野で積極的に学ぶことが非常に大切である」というメッセージをおくり、参加者は次への新たな一歩を踏み出すきっかけを得ることができました。





弘前大学男女共同参画推進室 第3回講演会

# 日米の教育研究制度の比較と 女性研究者の役割

## ～医学生物学を中心に～



### 講師 樋橋 敏夫 教授

アメリカ ノースウェスタン大学医学部分子薬理学 / 生物化学科 農学博士  
(Northwestern University John Evans Professor of Pharmacology)  
昭和 23 年東京大学農学部獣医学科卒業。東大教員を経た後、教育研究活動の場をアメリカに移して約 50 年。東大で始めた殺虫剤作用機構研究はライフワークとなっている。また、フグ毒のナトリウムチャンネル阻害作用の発見は、その後のチャンネル研究の端緒として一世を風靡した。イオンチャンネル薬理学の第一人者であり、多くの賞を受賞している。現在もなお第一線で活躍中であり、日本からの研究者も含め数多くの優秀な研究者を育てている。  
著書・論文約 500。



日時 平成 23 年 6 月 17 日 (金) 午後 1:30 ~ 3:00  
場所 弘前大学コラボ弘大 8 階 八甲田ホール

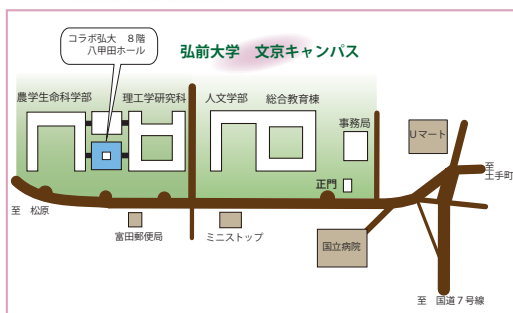
性別にかかわらず、意欲のある学生が力をつけ、キャリアを積み、研究者として活躍するには？日本の大学が抱える課題と求められる解決策は？日米の教育研究制度の違いや、豊富なご自身の経験など、世界の第一線で活躍を続けておられる樋橋先生のお話からは、未来に向けた多くのヒントを得られることでしょう。研究者を目指している人、留学を考えている人、視野を広げたい人・・・気軽にお話をうかがえるようにディスカッションの時間も設けます。直接お話できるまたとないチャンスです。お気軽にご参加ください。

参加無料

どなたでもお気軽にご参加ください。

一時託児  
あります  
無料

ご希望の方は、6月9日までに「託児希望」と明記の上、メールでお申し込みください。  
E-mail : [equality@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:equality@cc.hirosaki-u.ac.jp)  
記入事項：お子様の人数、氏名、性別、年齢及び月齢、留意点、電話番号



主催 国立大学法人弘前大学男女共同参画推進室

住所 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
電話 0172-39-3888 FAX 0172-39-3889  
E-mail [equality@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:equality@cc.hirosaki-u.ac.jp)  
URL <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>

後援 弘前大学生涯学習教育研究センター

学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム



## 2.4.2 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」第4回セミナー

### 弘前大学男女共同参画推進室

### 「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」第4回セミナー開催 「光」の研究・教育に魅せられて～未知へ挑み創成する楽しさと人材育成～

日 時：2011年12月7日（水） 13:30～15:00

会 場：弘前大学創立60周年記念会館 コラボ弘大8階 八甲田ホール

講 師：（独）科学技術振興機構男女共同参画主監、日本女子大学名誉教授  
工学博士 小館香椎子氏

#### 【セミナー内容】

弘前大学男女共同参画推進室は、去る12月7日、コラボ弘大八甲田ホールにおいて、第4回セミナー「光の研究・教育に魅せられて～未知へ挑み創成する楽しさと人材育成～」を開催しました。

講師には、独立行政法人科学技術振興機構男女共同参画主監、日本女子大学名誉教授で工学博士の小館香椎子先生をお迎えしました。

小館先生はまず、「光」をベースに実用的な分野でさまざまに応用されているご自身の研究内容について、「すばる望遠鏡用分光デバイス」や「超高速顔認証システム」などの実例を挙げながら、わかりやすく説明されました。次に、教育者として学生たちのモチベーションを上げて成果につなげる工夫が紹介され、「好奇心を誘うテーマを設定する」「こまめに成果を発信する」「就職したOGも含めて信頼に基づく縦と横のネットワークを構築する」といった数々のヒントに、参加者は深くうなずいていました。

最後に、先生が長年にわたって力を注いできた学会や大学における男女共同参画推進について、その必要性、課題、解決策が示されました。「女性研究者支援を通して男女共同参画が進むことで、多様な人材が個性を発揮し活躍できる豊かな日本社会が実現する」という言葉からは、先生の信念や願いが力強く伝わってきました。

関わってきたあらゆる人とのつながりを大切にしながら、3人の子育てと研究・教育を両立させてきた小館先生の具体的で示唆に富む話に、会場を埋めた約70名の学生・教職員は熱心に聞き入り、研究・教育について考えるととても有意義な機会を持つことができました。

実施後のアンケートには、「プライベートを大切にしながら研究者として活躍されている先生の話聞き、感銘を受けました」「励まされました。もっともっとお話をうかがいたいと思いました」など、多くの声が寄せられました。





女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」

弘前大学男女共同参画推進室 第4回セミナー

# 光の研究・教育に魅せられて

—未知へ挑み創成する楽しさと人材育成—

物理学者として多くの業績を残され、また、たくさんの研究者を育ててこられた小舘香椎子先生をお迎えし、研究と結婚・出産・子育てを両立させてきたご自身のエピソードも交えながら、「研究のおもしろさ」「教育の醍醐味」をお話しいただきます。

先生に気軽に質問をしたり、発言や意見交換ができるトークタイムもあります。

文系・理系、男女を問わず、学生・教職員の皆さん、一度じっくり「研究」「教育」について考え、語り合ってみませんか？



講師

**小舘 香椎子 氏**

（独）科学技術振興機構男女共同参画主監、  
日本女子大学名誉教授、工学博士

**日時：平成23年12月7日（水）**  
**午後1時30分～3時**

**場所：弘前大学コラボ弘大8階**  
**八甲田ホール**

## 講師プロフィール

日本女子大学家政学部家政理学科1部（物理専攻）卒業。東京大学工学部電子工学科助手を経て日本女子大学理学部数物科学科教授。現在、日本女子大学名誉教授。

専門分野は光エレクトロニクス。第20期・21期日本学術会議会員、同・科学者委員会男女共同参画委員会委員長。電波監理審議会委員（総務省）、総合科学技術会議専門委員、応用物理学会副会長・フェロー、SPIE（国際光工学会）フェロー、など政府委員・学会役員など多数を歴任。

内閣総理大臣表彰（男女共同参画社会への貢献）、文部科学大臣表彰科学技術賞、総務大臣表彰など受賞多数。

主催 国立大学法人弘前大学男女共同参画推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
TEL 0172-39-3888 FAX 0172-39-3889  
E-mail equality@cc.hirosaki-u.ac.jp  
URL <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>

後援 弘前大学生涯学習教育研究センター  
学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム



※ご来場の際は、公共の交通機関をご利用ください。至 国道7号線

## 2.4.3 北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウム

### 北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウム報告 「ライフステージに応じた多様な支援の実現に向けて」

日 時：平成24年2月13日（月）

会 場：秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）

参加者：大河原隆、杉山祐子、日景弥生、鶴井香織、赤嶺真由美、竹内 新

#### 【シンポジウム概要】（秋田大学 HP から転載）

秋田大学では、北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウム「ライフステージに応じた多様な支援の実現に向けて」を開催しました。

吉村学長の挨拶に引き続き、文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課長 板倉周一郎氏より基調講演「女性研究者の育成・支援について」と題してお話いただきました。

日本の女性研究者の現状を踏まえ、施策や支援事業の紹介をしていただきました。また、板倉氏自身が研究者でもあることから、様々な視点での提言や女性研究者に対するエールをくださいました。

女性研究者研究活動支援事業の採択大学として、岩手大学、弘前大学、秋田大学から取組みについての報告がありました。同じような課題や機関や地域特有の課題などがあることが分かり、情報共有し北東北地区として連携しながら男女共同参画推進に取り組むことにも意義があると感じました。

パネルディスカッションでは、「多様な支援の実現に向けて」というテーマのもと育児や介護に関する取組みの報告を3大学からしていただきました。それをもとにディスカッションを行い、制度を利用するための意識改革と身近なところからの制度の整備が必要ではないかということを確認しました。



吉村学長の挨拶



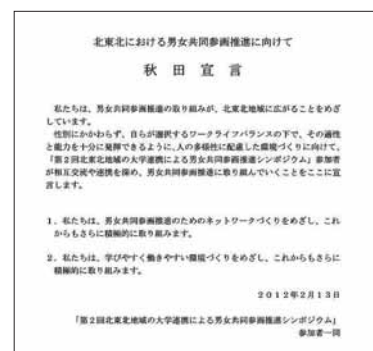
基調講演講師の板倉周一郎氏



パネルディスカッションの様子

最後に、北東北における男女共同参画推進に向けての秋田宣言が読み上げられ、満場一致で承認されました。

この講演会は、平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助金女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）秋田大学「大学間連携と女性研究者支援in秋田」の事業として開催しました。



秋田宣言

項目名	内容
日時	平成24年2月13日（月） 13：30～15：40（開場：13：00）
場所	秋田大学 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL） 2階 大セミナー室 秋田市手形学園町1-1
対象	秋田大学教職員、連携機関教職員及び県民の皆様
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会・挨拶</li> <li>2. 基調講演「女性研究者の育成・支援について」 講師 文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課長 板倉周一郎氏</li> <li>3. 女性研究者研究活動支援事業 採択大学報告 岩手大学、弘前大学、秋田大学</li> <li>4. パネルディスカッション「多様な支援の実現に向けて」 岩手大学、弘前大学、秋田大学</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
主催	秋田大学
共催	岩手大学、弘前大学、秋田県立大学、国際教養大学、日本赤十字秋田看護大学、ノースアジア大学、聖霊女子短期大学、聖園学園短期大学、秋田公立美術工芸短期大学、秋田工業高等専門学校
後援	秋田県
問い合わせ	秋田大学男女共同参画推進室コロコニ TEL：018-889-2260, メール：sankaku2@jimu.akita-u.ac.jp ホームページ：http://www.akita-u.ac.jp/coloconi/

女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)「つがルネッサンス!地域でつなく女性人才」

2011年9月20日発行



弘前大学男女共同参画推進室

# さんかくつうしん

～News Letter～ vol.5

白神の植物標本作成講座・・・・・・・・・・1  
 セミナー開催のお知らせ・・・・・・・・・・1  
 女性研究者フォーラム報告・・・・・・・・・・1  
 アンケート調査報告・・・・・・・・・・2  
 第2回女性研究者インタビュー・・・・・・3  
 第3回職員のための使える制度・・・・・・4  
 第2回理工学部女子会・・・・・・・・・・4  
 お知らせ・・・・・・・・・・4



“Science”の面白さを伝えるために、弘前大学で開催されている理系のイベントをつなげ発信します。  
 まず第1回目は、世界自然遺産「白神山地」の裾野からのイベントをご紹介します。

## 白神の植物標本作成講座

6月18日、さわやかな風の吹く世界自然遺産“白神山地”の裾に位置する弘前大学白神自然観察園(青森県西目屋村)で、植物標本の作成講座を開催しました。この講座は「つがルネッサンス!地域でつなく女性人才」の事業のひとつである理科離れ対策の一環として、ラボ・バスプロジェクト(教育力向上プロジェクト)と連携し、白神自然環境研究所、教育学部と合同で開催したものです。講師は白神自然環境研究所の山岸洋貴先生でした。

また、教育力向上の目的からイベント補助者を募集し、理科教師を目指す理工学部・農学生命科学部の学生4名が理科実習における指導技術を学びました。



山岸先生から植物標本の歴史や植物採取時の注意点等の説明後、実際に生育している植物を観察しながら分類ごとに採取のポイントを学びました。

No.1



植物の特徴がわかるように、立体的なものを平面上に貼り付けるための作業。グループごとに木本(ももほん)、草本(そうほん)、シダの押さえつけを体験しました。

No.2



乾燥には2回程度かかるため、あらかじめ山岸先生とイベント補助者が準備していた植物体を使い、甘紙に貼り付けました。

参加者のみなさんは、出来上がった作品を記念として持ち帰りました。

No.3

### セミナー開催のお知らせ

#### 「研究っておもしろい!」(仮題)

講師:日本女子大学名誉教授 小館 香椎子

(科学技術振興機構男女共同参画アドバイザー委員 工学博士)

2011年12月7日(水) 13:30～15:00

弘前大学 コラボ弘大8階 八甲田ホール

今回のセミナーでは、物理学者として情報フォトニクス分野で活躍され、また多くの研究者を育ててこられた小館香椎子先生をお迎えします。

研究と結婚・出産・子育てを両立させてきた先生ご自身のエピソードも交えながら、「研究のおもしろさ」「教育の醍醐味」をお話いただけます。

気軽に質問や発言ができるトークタイムもあります。

文系・理系、男女を問わず、学生・教職員の皆さん、一度じっくり「研究」「教育」について考え、語り合ってみませんか?

- ★ どなたでもお気軽にご参加ください
- ★ 参加無料
- ★ 無料託児あり(要予約)

### 女性研究者フォーラム

#### スキンケア&身だしなみ

#### 「メイクアップ講座」を開催しました!

講師: 資生堂

ビューティーコンサルタント

小田桐 亜沙子さん

日時: 2011年8月9日(火)

1回目 11:00～12:00

2回目 13:00～14:00

参加人数: 1回目・2回目の合計96名

オープンキャンパス  
同時開催



オープンキャンパスに訪れた女子高校生だけでなく、弘前大学の女子学生や女性教員の参加も多数ありました。講師の小田桐さんから、好感の持てるメイクアップとそれを支える健康な肌を保つスキンケアについて、実演を交えた説明がありました。就職活動にも使える、社会人のたしなみとしての「上品かつ目力のあるメイク」の実演のために、人文学部4年生の女子学生2名がメイクアップモデルとして協力してくれました。



## 平成21年度大学院生アンケート調査と「つがルネッサンス！」

### 「つがルネッサンス！」に活かされた大学院生のニーズ調査

平成22年度から展開中の科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「つがルネッサンス!地域でつなぐ女性人才」この提案には、平成21年度に大学院生を対象として実施したアンケート調査の結果が活かされているのをご存じでしたか? ご協力いただいた院生の方々に感謝するとともに、その一端をここでご紹介しましょう。

#### 実施した調査について

大学院生が、性別や年齢等にかかわらず、研究活動を活発に行うための支援ニーズを知るために平成21年度に実施したのは、「研究継続と活発化のための男女共同参画推進に関する調査」です。配布したアンケートは594部で、350部の回答がありました(回収率58.9%)。回答の内訳は、修士課程が74%、博士前期課程が11.5%、博士後期課程が12%でした。専門分野別では、回答者の85.7%が「理系」大学院生でした。性別では、男性からの回答が67.9%、女性が31.8%で、大学院生全体の男女比率からみると、女性の回答率が高いといえます。

#### 幅広い年齢層の人々が学んでいる

大学院の学生として幅広い年齢層の人々が学んでおり、学部卒業後に社会人経験をもつ学生も全体の34.1%ありました。全体の52.1%が25歳未満で、25~29歳が22.1%、30~34歳が11.5%、35歳以上12.1%でした。回答者の20%近くが有配偶者で、全体の14%が子どもを持ち、病後児保育等の必要も指摘されていることから、学びと育児を両立できる環境の整備も必要などがわかります。

#### 「専門を深めたい」が進学理由の第一位

大学院への進学理由では、修士課程・博士前期課程への進学理由で最も多かったのが「専門領域(テーマ)をより深めたい」で、全体の86.6%が肯定的な回答でした。博士課程後期への進学理由では、「専門領域(テーマ)をより深めたい」と「研究者になりたい」という2つの理由が明確に現れていました。

#### 修士課程は非研究職希望 博士課程は大学以外の研究職が第一位

大学院修了後の進路についてみると、修士課程・博士前期課程では、非研究職が42.0%、研究職が30.9%、学校教員11.8%、博士課程(後期)への進学希望者は10.3%です(図1)。博士課程・博士後期課程では、研究者の道を希望する傾向がより強いのですが、大学以外の公務員や企業等での研究職の希望者が、大学教員を上回っています。非研究職を希望する回答が24%あったことも特徴的です(図2)。

図1 修士課程・博士課程前期終了後の希望進路 (n=262)

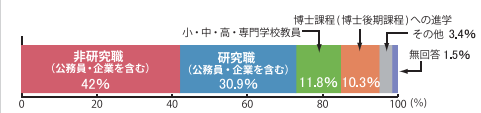
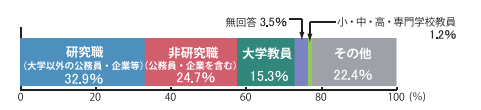
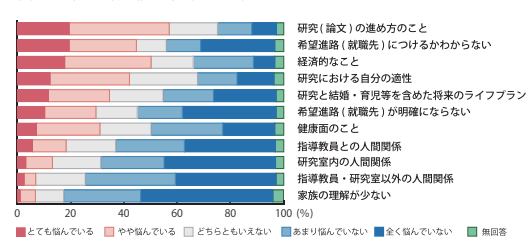


図2 博士課程・博士課程後期終了後の希望進路 (n=66)



#### 研究生生活の悩みと必要な支援は?

図3 研究生生活の悩み等 (n=349)

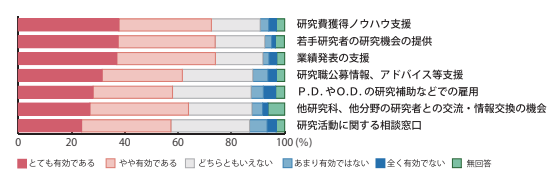


現在の研究生生活で有効と思われる支援については、経済面の支援、進路・就職相談窓口の設置、健康面の支援などの順に多くの回答がありました。大学の支援として有効と考えられているのは、研究費獲得ノウハウ支援、若手研究者の研究機会の提供、業績発表の支援などでした。(図4)

研究生生活についても聞きました。研究に意欲を持って取り組んでいる学生が60%を超え、研究の上では指導教員や研究室の先輩や同僚が頼りにされる傾向があります。研究生生活の悩み等で、「研究(論文)の進め方」が最も多く、「経済的なこと」や進路への不安などが続きます。指導教員との関係や研究室内の人間関係などの悩みも15~19%あることから、研究室以外の関係作りを含めた支援を検討する必要があるといえます。

(図3)

図4 研究活動に有効と思われる大学の支援 (n=349)



#### 「つがルネッサンス！」に反映されたことは?

弘前大学では、すでに学内保育園をもち、「弘前大学特別研究員制度」や独自の奨学金制度などを進めています。それに加えて「つがルネッサンス!」では、研究スキルアップができる支援、学部や世代を超えたネットワークづくりを考えました。アンケートで希望があった、女性用トイレや更衣室などの環境整備等についても、担当理事に要望を伝え、検討を要請しています。今後は「つがルネッサンス!」ホームページに、学内外の支援制度や助成金情報等がまとめて得られるページも開く予定です。どうぞご利用ください。

さんかくつうしん

「つがルネッサンス！」の女性研究者たち vol.2

# めざすは「プラナリアの何でも屋」

## 「生命にかかわる研究」を志して

中学生のころ、新聞の科学欄を読んで「生命にかかわる研究で、世のため人のためになりたい」という思いを抱いたのが研究の道に進むきっかけでした。その志が、現在の研究の源になっていると思います。

弘前大学理学部(当時)の卒業論文のテーマは「魚の large pit organ (注: 魚の側線にあり、水流や化学的な刺激を感受する触覚器官)、動物生理学でした。卒業後の7年間も魚の研究を続けたのですが、指導教授の退官を機に、後に弘前大学の学長も務められた手代木 渉先生のもとで、プラナリアの研究を始めました。

プラナリアは再生力強い生き物で、二つに切ると二匹のプラナリア、三つに切ると三匹のプラナリアになります。今、再生医療の分野で注目を集めているIPS細胞(注: 人工多能性幹細胞)は人工のものですが、プラナリアの体の中には、それに相当する新生細胞が、すでにあるのです。生殖細胞にも、筋細胞にも、脳にでも何にでもなれる万能細胞です。

## 研究は、どこまで行っても終わりがありません



リュウキュウナミズムシOH株

(沖縄由来の1匹を弘前で殖やして株化したクローンプラナリアなので、石田によりOH株と名付けられ、実験動物として他大学でも使用されている)

とはいえ、プラナリアの再生能力については比較的知られていても、それ以外のことはあまり研究されていません。

手代木先生と一緒に書いた『プラナリアの生物学』(共立出版・1987年)は、プラナリアの全貌を網羅した総合的専門書で、言わば「プラナリアの何でも屋」をめざしたものです。

日本には二十数種の淡水棲プラナリアがいて、北海道には13種類、青森県には7種類、秋田県や岩手県には4種類生息しています。また、北海道と青森県にしかない白いプラナリアもいますし、海には海産プラナリアも生息しています。そういった生息分布や生態、再生のメカニズムにしても、それぞれ種類によって、いろいろと違うので、まだ知られていない、突き止めなければならない問題がまだまだたくさんあるのです。

プラナリアに関する国際シンポジウムが大体3年毎に開催されていて、これまでいろいろな国に出かけて発表し、各国の研究者と交流できたのはとても良い思い出になっております。日本では初めてとなるこのシンポジウム(第6回国際渦虫類生物学シンポジウム)が、1990年に弘前大学で開催されました。手代木先生が組織委員長で、私が事務局長を務めました。私はこの時も発表しましたので、発表準備をしながらの任務遂行は本当に大変でした(18カ国から約150名の参加)。でも、多数の先生方のご協力のもと、無事に成功裡に終了し、大変貴重な経験を積むことができました。



## 意思があるなら躊躇なく結婚・子育てを

私の研究分野である発生生物学的見地に立てば、生き物は子孫を残すようにできているのですから、女性研究者も結婚して子育てをした方が良いと思います。子供や孫がいると楽しいですよ。そうした意思があるのなら、躊躇なく、なるべく早く結婚して、なるべく早く子供を産んで、若くて体力があるうちに子育てをしたらいんじゃないでしょうか。

理系に限らず、やりたいことを早く見つけて、研究を続けてほしいです。好きな道なら頑張れますから。(このインタビューは平成23年2月7日に行いました。その後、お姑さんはめでたく101歳のお誕生日を迎えられました)

このコーナーでは、弘前大学で活躍する女性研究者を紹介します。

農学生命科学部 生物学科 教授  
石田 幸子  
Sachiko ISHIDA



「来年退職を迎えます。これまでで  
きなかった、映画鑑賞、読書、お茶、  
お花、スポーツなど、やってみたい  
ことがたくさんあります」

秋田県八森町(現在は八峰町)出身

## 人生には「ドラマ」があるんです

23歳の時結婚して、26歳までに娘を二人出産しました。赤ちゃんのうちから「りんごベビーホーム」という保育園に預けて、すぐ仕事に復帰しました。子どもを大学に出勤するときに預けて、帰りは遅くなるので、お姑さんにお迎えを頼みました。お姑さんがいてくれたから仕事を続けられたようなものです。

実は10年で離婚したのですが、お姑さんは、息子とはではなく、私たちと暮らすと言って、それからずっと一緒にいます。10年前に骨折してから施設でお世話になっているものの、今100歳で元気です。お姑さんはできた人で、私たちは仲が良く、ケンカはほとんどしたことがありません。

娘たちは、それぞれ良い相手を見つけて若いうちに結婚しました。その後私は、ますます自分の仕事に打ち込めるようになり、今はワークオンリーの生活を楽しんでおります。

## 研究者にテクニカルサポーターを

女性研究者が子育てと仕事を両立させていくために、実現すればいいと思うことはいくつかあります。

まず一つは、育児休暇などを取りやすくするために、休暇期間中、代わりに講義や学生実験をやってくれる方がいれば良いですね。たとえば私を例にすると、集中講義でもいいので、私の代わりに発生生物学を担当してくださる方がいれば助かるわけです。女性研究者が気軽に長期休暇をとれるようなシステムがあれば役立つと思います。

それから、子育て期間は、早い時間に帰宅できるようにしてもらえれば良いと思います。会議が夕方の5時40分から始まるというのでは、育児中の人は困りますよね。

さらに、事務的なサポートや研究のテクニカルサポートをしてくれる人がいれば大いに助かります。講義で、多人数の小テスト提出状況を毎回チェックしたり、事務的な書類を作成したり、研究で使う切片を作ったり、実験器具を洗ったり…何から何まで一人でやらなければならないので大変です。テクニカルサポートをしてくれる人は、海外なら大学のお金で雇用されていて、ずいぶんたくさんいらっしゃいます。



連載第3回

**もっと知りたい！  
職員のための使える制度**

**勤務時間をずらしたい！**

—育児又は介護に伴う早出遅出勤務制度—

弘大職員の基本的な勤務時間は、8時30分から17時まで（12時15分から13時までは休憩）となっています。しかし、お子さんを幼稚園に送ってから出勤したいので勤務時間を9時から17時30分にしたい、または、ご家族の介護に当たるため、水曜日は勤務時間を8時から16時半にしたいという場合もあるのではないのでしょうか。

この制度は、職員が育児又は介護を行うために、勤務時間の長さはそのままとして、始業時刻を早くし（午前7時以後）終業時刻も早める、もしくは、遅出して終業時刻も遅くする（午後10時以前）という制度です。例えば、未就学児童をお持ちの場合や、「放課後児童クラブ」へお子さんを迎えに行く職員が利用できます。その他、業務に支障がないことが条件とされており、事前申請が必要です。詳しくは規程をご覧ください。

規程の見方：「弘前大学HP」→「教職員の方へ」→「弘前大学規則集」→「06.人事関係」→「検索」に「規程第6号」と入力してください。

**Information 1 学会開催時の託児情報等支援 始まります！**



詳細は、近日ウェブサイトで公開します。

★ 気になる方はココをチェック ★  
<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/>

**Information 2 教職員のための  
制度・手続き情報ナビ (仮称)**

**～子育て・介護・その他身近な事に関する制度・手続き情報～**

男女共同参画推進室では、教職員のワーク・ライフ・バランス実現へ向けて、子育てや介護等に利用できる制度や手続等の情報をウェブサイトへ掲載する準備をしています。

学内のほか、県や市、地域の情報がいっぱいです。11月開設予定です。

どうぞご期待ください。



**Information 3 「論文投稿費助成事業」及び  
「英文校閲費助成事業」廃止のお知らせ**

平成22年度に実施していた「論文投稿費助成事業」および「英文校閲費助成事業」につきましては、科学技術振興調整費の見直しに伴い廃止いたします。昨年度の実施期間が短かったにもかかわらず評判がよく、本年度の再開を心待ちにしていた方々もおられることと思います。廃止の周知が遅くなり、ご迷惑をおかけした方々には申し訳ございませんでした。

平成23年度の「つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人才」は文部科学省の措置により科学技術人材育成費として継続しております。今後とも、よろしく願い致します。



**第2回理工学部女子会**

**数学好きが集まる数理科学科**

数学は現代の技術文明の基礎



6月6日に理工学研究科で「女子学生座談会」が開催されました。各学科持ち回りで所属する女子学生から学科の魅力聞き、その魅力を最大限生かしたHP作成や広報活動を行い、「理系女子」を増やすことを目的としています。今回は数理科学科に所属する女子学生に集まってもらいました。

数理科学科はその名のとおり「数学」を学ぶ学科です。集まってもらった女子学生は皆、数学が好きで、大学4年間を好きな数学の勉強をしたいから、との理由で数理科学科を志望していました。数理科学科では、色々な数学の分野を学べ、高校とは違った数学の世界を知ることができます。また、パソコンを使用し、プログラミングされた数式に数を代入することで図形を描くなど、一般的な「数学」のイメージとは違う授業も行っています。

理系には英語が苦手な人が多いのですが、予想に反して、多くの女子学生は英語が得意でした。英語の長文を読むのが好き、比較的楽に英単語を暗記できる、受験もさほど英語で苦労しなかった、とのことでした。英文に対して抵抗がないということは、英語が苦手な私にとっては羨ましい限りです。社会人になっても英語に接する機会があるので、数学だけでなく英語の能力もぜひ生かして欲しいです。

印象深かったのは、自分を育ててくれた地域に貢献したいので公務員になりたい、という一言でした。「国家公務員が国民全体の奉仕者であってその職務は国民から負託された公務である」というフレーズを徐々に思い出しました。青森県のことを考え、公務員になり、どうにかしたいと思う学生が多くいることに感謝したいです。

(理工学研究科 藤寄里美)

★ 気になる!! 理工学部女子会はココにアクセス ★  
<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mirai/list.html>

弘前大学男女共同参画推進室 〒036-8560 青森県弘前市文京町1  
電話 0172(39)3888 FAX 0172(39)3889  
Email : equality@cc.hirosaki-u.ac.jp  
URL : <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>  
つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人才  
URL : <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/>



女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)「つがルネッサンス!地域でつなぐ女性人才」

2012年3月12日発行



弘前大学男女共同参画推進室

# さんかくつうしん

~News Letter~ vol.6

制度・手続き情報ナビ・・・1  
第4回セミナー開催報告・・・1  
K.A・G.A・K.U・・・1  
部長アンケート調査報告・・・2  
第3回女性研究者インタビュー・・・3  
育児休業取得インタビュー・・・4  
第3回理工学部女子会・・・4  
お知らせ・・・4

## Work・Life・Balance

<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/care/>

### 教職員のための制度・手続き情報ナビ ウェブサイトで公開されました!



#### 教職員のワークライフバランスを実現するために

「育児休業中、給料はどうなるの?」「結婚した時の提出書類は何かあるの?」「介護休暇の手続きはどうするの?」「家族の介護をしながら、仕事も続けることはできる?」など学内の制度や手続き、地域の情報について知りたい時は、情報ナビをご活用ください。

#### Info 01 妊娠・出産・育児に関する情報

- ・妊娠出産に関すること
- ・勤務時間・休業、休職に関すること
- ・育児に関すること
- ・非常勤職員の休暇(無給の休暇)

#### Info 02 介護・介護保険・共済に関する情報

- ・介護の休暇・休業に関すること
- ・介護保険に関すること
- ・共済組合費に関すること

#### Info 03 結婚に関する情報

- ・結婚した時の手続き等に関すること

#### Info 04 わたしの知りたい Q&A

- ・国民年金に関すること
- ・子育てに関すること
- ・健康に関すること

#### Info 05 関連機関・団体等 一覧表

- ・弘前市役所
- ・青森県青少年・男女共同参画課
- ・厚生労働省青森労働局 他

情報ナビへのご意見やご要望など、教職員の皆さんの  
お声をお聞かせください。

連絡先: 弘前大学男女共同参画推進室  
equality@cc.hirosaki-u.ac.jp

## Seminar Report



### 「光」の研究・教育に魅せられて —未知へ挑み創成する楽しさと人材育成—

昨年12月7日(水)、コロボ弘大8階八甲田ホールにて第4回セミナーを開催しました。

独立行政法人科学技術振興機構男女共同参画主監、日本女子大学名誉教授、工学博士の小館香椎子氏を講師としてお招きし、ご講演いただきました。

ご自身の「光」に関する研究についてのお話や、教育者として学生たちのモチベーションを上げて成果につなげる工夫の紹介。さらに、長年にわたって力を注いでこられた学会や大学における男女共同参画推進の必要性・課題・解決策など、人とのつながりを大切にしながら、3人の子育てと研究・教育を両立させてきた小館先生の具体的な示唆に富む話に、会場を埋めた約70名の学生・教職員は熱心に聞き入っていました。

(詳しくは「つがルネッサンス! Web サイトをご覧ください。)

## KA・GA・KU Report

“Science”の面白さを伝えるために、弘前大学で開催されている理系のイベントをつなげて発信しています。



2011年度は教育学部ラボバプロジェクト・白神自然環境研究所・生涯学習教育研究センターとの連携イベントを3件行い、弘前大学総合文化祭へも出展しました。

「昆虫博士養成講座・入門編」では、小学生が昆虫採集やカブトムシの標本作成に挑戦しました。「むつ市弘前大学連続講演会 第3回目～活性化する青森の今とこれから～」では、特任教員2名が高校生や一般の方を対象に自らの研究を紹介しました。



また、地元高校からの依頼を受けて昆虫DNAを比較する実験を行うなど、野外活動から実験室体験まで、幅広い内容でKA・GA・KUの楽しさをお届けしています。



さんかくつうしん

平成22年度「部局長アンケート」と「つがるネッサンス！」

「各部署等の現状から「つがるネッサンス！」事業へ

平成22年度からスタートした科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」では、学内外の状況を調査し、得られた結果を事業展開に反映させています。今回は平成22年度に行った、学内部署局長等を対象としたアンケート調査の結果の一部をご紹介します。

実施した調査について

「つがるネッサンス！」の開始にあたり、学内の各部署等の現状と取り組みの状況を把握するために平成22年度に実施したのは、「弘前大学における女性研究者の比率向上に向けた取り組みに関する部局長アンケート」です。調査対象は19部署で、18部署(うち理系11部署)から回答がありました。

数値目標のハードルは高い

「つがるネッサンス！」が設定している、平成24年度に女性研究者在職比率15%、同採用比率16%という数値目標について、調査時点の達成状況と達成の見込みは、右のようになっています。既に達成している部署を除けば、目標の達成は高いハードルとして認識されていることがわかります。

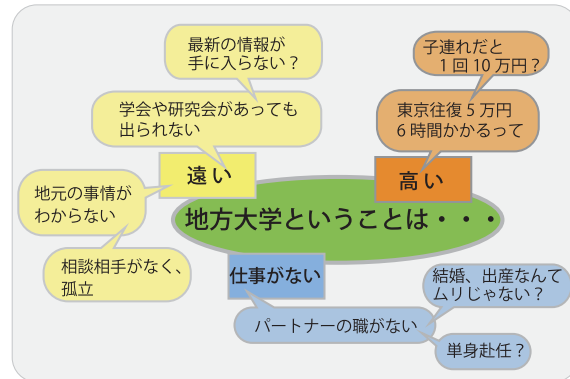
数値目標について	回答部署数
既に達成している	4部署
達成の見込み「ある程度」	2部署
達成の見込み「困難」	11部署

困難さの理由は応募する女性の少なさ

プラス地方大学という条件

それでは、なぜ数値目標の達成は困難なのでしょう。下のよう理由(複数回答)が主たるものとして挙げられました。ここでは、「女性研究者の少なさ」という日本の大学に共通する理由に加えて、「交通不便な弘前の立地条件」や「配偶者との別居や単身赴任」といった本学固有の理由がみえてきます。

数値目標の達成が困難であるとする主な理由(複数回答)	回答部署数
採用ポストの少なさ	6部署
女性研究者・女子学生の少なさ	3部署
公募への応募者の少なさ	2部署
交通不便な弘前の立地条件	2部署
配偶者との別居や単身赴任	2部署



すなわち、地理的条件(遠い、高い)、生活条件(仕事がない)という、地方大学ならではの事情が、女性研究者に公募への応募を躊躇させる、という上のような構図がみえてきます。加えて、結婚・出産・家事・育児・介護の負担や過重な勤務状況が研究の継続を難しくしているという指摘もみられました。

改善のための施策とは?

弘前大学では、すでに学内保育園の設置といった施策が行われていますが、これらに加えて今後有効と考えられる施策(複数回答)として、右のようなものが挙げられました。新規採用者・応募者の増加に加えて、現在在籍している女性研究者の研究継続のための施策もみられます。

今後有効と考えられる施策(複数回答)	回答部署数
女性限定ポストの設定	3部署
ポジティブアクション	2部署
女性研究者の成果発表の支援	2部署
定員数の増加	2部署
過重勤務・待遇など、環境の改善	2部署

1年後の現状は

「つがるネッサンス！」のスタートから1年あまりが経過し、全学女性研究者比率は13.1%(平成22年度)→15.1%(23年度)へ、保健学科を除く理系では3.5%(22年度)→4.9%(23年度)へと向上しました。この間(平成23年4月～12月)の新規採用ポストへの女性の応募は、全体では14.0%であるのに対し、理系は7.6%、文系は24.2%でした。女性研究者の応募のない公募も存在しています。

全学的な課題の共有に向けて

この調査から明らかになった課題について、「つがるネッサンス！」では女性研究者が家族と一緒に赴任できる制度、研究スキルアップができる支援、学部や世代を超えたネットワークづくりといった取り組みを進めており、さらには弘前大学のすべての「教職員のための制度・手続き情報ナビ」もオープンしました。これらをより前進させるために、各部署等との連携と全学的な課題の共有は、大きな力となるでしょう。皆様のさらなるご支援をお願い申し上げます。

さんかくつうしん

「つがるネッサンス！」の女性研究者たち vol.3

# 主婦から研究者への転身

## ある日、恩師から電話が

弘前大学医療技術短期大学部(当時)を卒業後、1年間保健師養成の学校に通い、森田村(当時)で5年近く保健師をしていました。その後結婚を機に退職、弘前に住んで2人目が産まれた後に、恩師から一本の電話がかかってきました。「照美ちゃん、今何やってるの?」「今、主婦してます」「ちょっと非常勤やってみない?」…これが今の道に進むきっかけでした。

はじめはお断りしたのですが、「誰にでもできることではない」と説得され、ついに「短い時間だったら」とお引き受けすることにしました。

週3日の勤務からスタートし、5年間非常勤講師として勤めた後、短大が4年制の保健学科に移行するときに助手になりました。



保健学研究科 准教授  
古川 照美  
Terumi KOGAWA

今回のインタビューで、これまでのことをいろいろふり返ることができました。まわりのみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

青森県尾上町(現在は平川市)出身

## アイロンをかけながら放送大学で勉強しました

非常勤講師で働き始めたころ、夫が当時まだ珍しかったスカパーパーフェクトVを見るために、3万円をかけてチューナーとアンテナをつけました。時期を同じくしてスカパーで放送大学を視聴できるようになったので、大学卒の資格を取るために受講することにしました。放送大学は2年で修了し、無事学士号を取得できました。

助手になってから、当時の上司に学位を取るよう言われていたころ、放送大学でちょうど大学院を新規開設することになりました。さっそくチャレンジして1期生となり、2年間で修士号を取得しました。

放送大学は、いつでもどこでも学ぶことができます。大学の時も、大学院の時も、自分の登録している授業を録画しておいて、よくアイロンをかけながら見たものです。

途中でノートをとったりしながら、1時間の1回の放送分で1枚アイロンがけをするというペースでした。



研究や社会貢献としての事業を通して、学校や公民館などで地域の人たちと一緒に活動しています。

このコーナーでは、弘前大学で活躍する女性研究者を紹介します。

## 母の応援 夫の支え

助手として本格的に勤めるときには、夫をはじめ、周りみんなが反対しました。唯一「女から仕事を取っちゃだめ。応援するから仕事はした方がいいよ」と言ってくれたのが、私の母でした。母は、自転車で1時間かけてうちに通い、小学生だった2人の子どもたちが帰宅する時間に家にいて、私が買っておいた食材で夕食の準備もしてくれたのです。夕方に自営業の父がライトバンで迎えに来て、母親と自転車を乗せて帰るという毎日でした。8年前に父が亡くなってからは母も来られなくなりましたが、親には本当にお世話になりました。

実は、6年ほど前に不況のあおりを受けて夫が勤めていた会社が倒産してからは、夫がうちの家事をしてくれています。私はけっこう帰りが遅くなったり、出張も多いのですが、彼がいるので安心して仕事ができます。週末には、夫とお酒を飲みながら、たくさん話をします。それが私のストレス解消法になっていて、今は、そういう意味で、とても支えてもらっていると思います。

## これまでの人生が研究に生きる

私の研究は「保健」分野なので、データを見て人の行動をどう変えていくのかということが中心的内容です。

青森県南部町をフィールドとして行っている研究では、中学生に対して採血を含めた健診をした後、保健師や栄養士が母親と子どもを相手に「健康面談」をして、その結果を分析しています。そこでは、私のこれまでの母親としての経験が大いに活かされていると感じます。自分の子どもの成長と一緒に、わからないことや疑問点を、少しずつ研究という形で自分なりに問題解決していく過程がとても楽しいです。

## エール ~若い女性研究者たちへ~

結婚出産後に研究者の道に進んだ私ができるのは、勉強は、やる気さえあればいつでもできるということです。子どもを産める期間は限られているので、少し寄り道になったとしても、その時にできないことを大切にすることも人生ではないでしょうか。

それから、「野心」を持ち続けることです。「野心」は「夢」という言葉と置き換えることもできます。ああしたい、こうしたいという強い気持ちが、最後まで頑張れる原動力になるでしょう。何かあっても「野心」を持ち続けられれば、きっと何とかなる、乗り切っていけると思っています。

私のことを「野心家だ」と言ったのは夫です。はじめは「え?私か?」と思いましたが、その「野心」があったからこそここまで来たのかなと、今では思っています。

さんかくつうしん

Childcare Report

弘前大学男性教員で初めての育児休業取得！  
～仕事と育児の両立支援を男性にも～

全国的に男性の育児休業取得がまだまだ進まないなか、教育学部の増田貴人准教授は、昨年7月に2人目のお子さんが生まれ、10月に約1か月間育児休業を取られました。その時の様子、感じたことなどをインタビューしました。



— 育児休業を取られた理由は何ですか？

もともと「わが子の育児に専念するための休みを取りたい」という思いは持っていたのですが、今回は5歳の上の娘のため、というのが一番大きな理由でした。私が下の娘の世話をすることで、長女の「お母さんを独占したい」という望みをかなえてやれてよかったと思います。

— 取ってみてわかったこと、感じたことはありますか？

スーパーなど外出先で、おむつ替えスペースが女性用トイレにしか設けられておらず、不便でしたね。

それから、住んでいるアパートの管理会社から、いきなり「お仕事は順調ですか？」と電話がかかってきたのにはびっくりしました。誰がどう連絡したのかはわかりませんが、平日に昼日中から子ども連れて散歩していると、男性が仕事をしていないのは変だと思われるんですね。

— なるほど。「男性も育休」と言うなら、「普通に」取れるように周りが変わる必要がありますね。

職場の理解のおかげで、「育休届を出す」というところまではさほど難しくありませんでした。

でも、取得期間が長くなればなるほど家計へのダメージが大きくなる今の制度では、本当は1年間休みを取りたくても、現実的には厳しいです。それに、休みから復帰した直後は、仕事がまさに山積みで、2週間ほどはろくに家に帰れない状況が続きました。いろいろな面で、無理せずに育休を取得するには、まだ壁が多いなと感じます。



— この先、男性の育休取得が増えていくためにはどのようなことが望まれますか？

本心では育休を取りたいと思っている男性は少なからずいると思います。そのような人たちが育休取得に踏み切れるように、「出産して子育てしながら働き続けたいと願う女性のための支援」と同じように、「働きながら子育てにも主体的に関わっていききたいと願う男性のための支援」も、もっと充実すればいいと思います。

弘前大学においても、たとえば育児短時間勤務などにおいて、使い勝手のいい独自の「弘前大学プログラム」のようなものが開発・運用されてもいいのではないのでしょうか。

これから、男性も女性も、普通に仕事も育児もできる環境づくりが進んでいくことを望んでいます。

— どうもありがとうございました。

第3回 理工学部女子会

IT社会の未来を切り拓く  
電子情報工学科

次世代型IT基盤技術の研究と開発



12月13日に理工学研究科で「女子学生座談会」が開催されました。各学科持ち回りで所属する女子学生から学科の魅力を知り、その魅力を最大限生かしたHP作成や広報活動を行い、「理系女子」を増やすことを目的としています。今回は電子情報工学科に所属する女子学生に集まってもらいました。

電子情報工学科では、回路設計やプログラミングなど最先端のITに関する技術や知識を学べます。コンピュータのことを深く学ぶために電子情報工学科を志望した学生が多くいますが、高校時代からコンピュータに親しんできた人ばかりではありません。入学時にはコンピュータの操作に慣れていない人でも、コンピュータに詳しい同級生に教えてもらいながら、仲良く助け合いながら勉学に励んでいます。

座談会に参加してもらった女子学生は仲が良く、別々の研究室に分かれても時々鍋パーティを開いて集まるそうです。2名は共同で卒業研究をしており、研究に行き詰まったときはお互いに相談や助言をしながら研究を進めています。卒業後は半導体やゲーム開発、IT関係、旅客サービス業などの様々な業種の会社に就職することが決まっています。内定先の会社の研修ですでにSkypeを使い、会議を行いながらソーシャルゲームを企画している女子学生もいました。就職後に従事したい業務や企画したい内容を生き生きと話す姿を見て、当時の自分を思い返し少し恥ずかしくなりました。

同席された教員は「1年生のときと比べて“大人”の受け答えをしていて驚いた」と感慨深い面持ちでした。大学時代は身体的には目立った変化はないけれども、精神的には“子供”から“大人”へと大きな変化を遂げているのだと実感しました。これからも社会でさまざまな経験をしながら、より大きく成長していくと信じています。

(理工学研究科 藤崎 里美)

大学生活 弘前大学理工学部 理工学部女子会 将来の夢

★ 気になる!! 理工学部女子会はつっこにアクセス ★

<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mirai/list.html>

お知らせ

これまで3回にわたりもっと知りたい!職員のための使える制度”を連載してまいりましたが、冒頭でもお知らせいたしましたとおり「教職員のための制度・手続情報ナビ”をウェブサイトオープンいたしましたので今後は是非こちらをご活用いただきたいと思います。連載は休止いたしますが、特にお知らせしたい内容などがありましたら”さんかくつうしん”でもご紹介したいと思っております。

弘前大学男女共同参画推進室 〒036-8560 青森県弘前市文京町1  
 電話 0172(39)3888 FAX 0172(39)3889  
 Email : equality@cc.hirosaki-u.ac.jp  
 URL : http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/  
 つがレネッサンス! 地域でつなぐ女性人才  
 URL : http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/

Page 4

Hirosaki University 弘前大学 男女共同参画推進室

## 2.5 理系研究者の裾野拡大と女性研究力向上

### 2.5.1 理科離れ対策事業（他部局との連携による活動）

#### 理科離れ対策事業（他部局との連携による活動）報告

KA・GA・KU（科学）のイベントは、子供たちに理科の楽しさを伝えることで理科系の次世代育成を進めることを目的に開催されています。次世代を担う小・中・高校生だけでなく、彼らの理科に対する意識に大きな影響を与える学校の先生やご家族からも幅広くご参加いただき、地域みんなで「理科好き」になっていただくことを目指しています。KA・GA・KUの取り組みは、弘前大学各部局で独自に行われてきた既存のイベントを相互につなげ、内容をより充実させたり、参加者の方々により参加していただきやすくすることにも貢献しています。さらに、KA・GA・KUのイベントには、理科教師になりたい理工学部や農学生命科学部の学生がイベント補助者として関わっています。これは、教育現場に触れる機会の少ない理工農系の学生に対し、科学教育スキルを磨く場を提供することをねらいに行われている取り組みです。

Report  
①

#### 「白神の植物標本作成講座」

日時：2011年6月18日（土） 10:00～15:00（弘前大学発着の送迎バスも出ました）

場所：弘前大学白神自然観察園（青森県西目屋村川原平）

参加人数：21名

[ポスター](#)（PDF 689KB）

#### 【講座内容】

講座には、18歳から77歳までの弘前大学の学生から県内の高校の理科教師を含む一般の方21名が参加しました。白神自然環境研究所の山岸先生から植物標本についての説明を受けた後、観察道で植物を採取し、持ち帰った植物を用いて実際に標本作成を体験しました。

今回の講座は、男女共同参画推進室が取り組む理科離れ対策事業の一環として、みなさんに理科の面白さを知っていただくために行いました。理科教師を目指す弘前大学の学生4名は、事前に標本作成の講習を受け、補助スタッフとして参加し、理科実習における指導技術を学びました。





## 科学に興味を沸かす講座 「つがるの昆虫博士養成講座・入門編」

日時：2011年9月3日（土）9:00～12:00  
場所：弘前市こどもの森ビジターセンター（弘前市大字坂元字山元）  
主催：弘前大学生涯学習教育研究センター  
後援：弘前大学白神自然環境研究所、弘前大学男女共同参画推進室  
参加人数：小学生3名とその保護者  
[ポスター](#)（PDF 540KB）

### 【講座内容】

台風12号の接近により天候が心配されましたが、当日はこの夏一番の暑さを記録するほどの晴天に恵まれました。講座には市内の3つの小学校からそれぞれ1名ずつ合計3名が参加しました。昆虫好きの3年生たちは、講師の中村先生（白神自然環境研究所）から高速で飛ぶトンボを巧みに網でとらえるコツを教わったり、同じく講師として参加した鶴井・赤嶺（ともに男女共同参画推進室）と一緒に、とらえた昆虫の名前を図鑑で調べる体験をしました。講座の後半には、カブトムシの標本作成も行い、出来上がった標本は各々お土産として持ち帰りました。

講座主催者の深作先生（生涯学習教育研究センター）から「今度はいつやるか？」との問いかけに、すっかりお互い親友になった博士のタマゴたちが「明日！」と声をそろえた講座でした。



## むつ市 弘前大学連続講演会 第3回目 「活性化する青森の今とこれから」 (あおもり県民カレッジ・高校生スキルアッププログラム単位認定講座)

日時：2011年10月20日(木) 18:30～20:30

場所：むつ市下北文化会館 視聴覚室(むつ市金谷1丁目10-1)

演題：「リケ女で地域を盛り上げる!? -2人の女流昆虫博士の研究-」

1. 「リケ女という天才」 鶴井 香織(男女共同参画推進室 特任助教)
2. 「コガネムシのはなし」 赤嶺 真由美(男女共同参画推進室 特任助手)
3. 「バッタの模様の意味をさぐる -敵!・恋!・熱!-」 鶴井 香織(1.に同じ)

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター・むつ市教育委員会

参加人数：19名

### 【イベント内容】

講演会には、高校生から一般の方々まで男女問わず幅広い参加がありました。講演会ではまず鶴井が、性別などの立場を問わず誰もが生き活きと個性を發揮できる社会をつくるのが人才育成を促進することになり、地域を盛り上げるにつなげるのではないかと、という考えを紹介しました。続いて、立場を問わず生き活きと活動している人の一例として、リケ女(理系を専攻する女性のこと、現在はまだそれほど数が多くないとされています)である赤嶺と鶴井より、自身が取り組んでいる研究の内容が紹介されました。赤嶺からは、カブトムシが含まれる分類グループであるコガネムシのツノや色について、専門的な解析結果を交えたわかりやすい解説がありました。鶴井からは、バッタをはじめとする様々な生物が持つ体の色や模様の意味について、身近な例を交えた解説がありました。プログラムの最後に設けられた質疑応答の15分間では、何人もの参加者が次々と質問を投げかけ、時間が足りなくなるほど活発な交流を行うことができました。





## 「ミニ昆虫展とバッタのジャンプ大会」 - 虫の跳躍を科学する -

日時：2011年10月22日（土） 10:00～17:00（ジャンプ大会は 14:00～16:00）

場所：弘前大学農学生命科学部棟1階 151講義室

参加人数：134名（記名してくださった一部の方々）以上

[ポスター](#)（PDF 288KB）

### 【イベント内容】

イベントでは、昆虫標本の展示、バッタのジャンプをハイスピードカメラで撮影した動画の上映、バッタのジャンプ大会（バッタをジャンプさせ、その距離と方向角度を測る）が行われました。イベント当日には、農学生命科学部の学生2名が補助者として協力してくれました。

少し奥まった教室での開催となりましたが、幼稚園に入る前の小さな子供たちから中高生、大学生、一般の方々まで、男女問わず大勢の方々が足を運んでくださりました。みな、数々の昆虫標本に見入り、バッタのジャンプのハイスピード動画に感嘆の声を上げ、自分の手で掴んだイナゴをジャンプコースに据えて跳ばせる体験をしました。

謝辞：ハイスピードカメラでの撮影に関して、理工学研究科 城田 農 助教 と 理工学部 福士 徹 君にご協力いただきました。



## 弘前大学ラボバスプロジェクトDNA実験講座 ～ 昆虫のDNAを比較する、尾上総合高校編 ～

日時：2012年1月26日（木）13:30～16:30

場所：弘前大学遺伝子実験施設

参加者：青森県立尾上総合高等学校2年生5名（女子学生3名 男子学生2名）、教員1名

### 【講座内容】

尾上総合高等学校からの依頼を受け、アガロースゲル電気泳動の体験を中心としたDNA実験講座を開催しました。参加した高校生5名は、DNAを増幅するPCRや、DNAを特異的な塩基配列で切断する制限酵素処理にも挑戦し、コガネムシ科の昆虫3種のDNAの比較をしました。待ち時間の多いDNA実験ですが、その時間を利用して特任教員の話や、高校生活、将来のことなどについてじっくり交流する時間を持つことができました。



## 森の探検隊 早春の里山ウォーキング

日時：2012年3月10日（木）10:00～14:00

場所：大鰐町 早瀬野・島田地区（ひばのくに迎賓館）

主催：森の詩人達実行委員会

共催：大鰐町、大鰐町地域交流センター鯛come

後援：つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才、弘前大学白神自然環境研究所、ひばのくに迎賓館、白神山地財団

参加人数：16名（大人13名、小学生3名）

[ポスター](#)（PDF 203KB）

### 【イベント内容】

例年よりもかなり多い残雪の中、青森県大鰐町早瀬野・島田地区で「第2回 森の探検隊 早春の里山ウォーキング」が開催されました。参加者は小学生から大人までの幅広い方々で、弘前市や大鰐町からだけでなく青森市から訪れた家族もありました。参加者たちはかんじきやスノーシューを履

き、数十センチ以上の積雪が残る林道を歩きました。「前日は降雪が無かったので動物の足跡は見られないかも？」という予想をよそに、雪の上に残るニホンカモシカ、テン、キツネ、タヌキ、鳥（カケス？）の足跡を観察することが出来ました。また、林道脇の木の幹にくっきりとしたツキノワグマの爪痕を見つけることも出来ました。人里近くにも数多くの動物たちが暮らしていることを実感するイベントとなりました。



## 2.5.2 女性研究者フォーラム

### 「学部を超えて 女性教員とお茶会しましょ!!」報告

女性研究者フォーラムは、学部を超えて女子学生と女性教員の交流する場です。主な目的は2つです。1つは、男性が大半を占める研究者社会においてマイノリティである女性研究者同士をつなげることです。もう1つは、女子学生へのロールモデルの提示です。現在ではこれらに加え、参加者から生の声を聞くニーズ把握の場としての役割も担っています。

女性研究者フォーラムでは、参加者全員の顔が見えるラウンドテーブル形式にて交流を行います。会の前半はゲスト（話題提供者）に準備していただいた話題を中心に交流します。後半は前半の話題を受け、自由な流れでおしゃべりをします。自らの意見を述べたり体験を語るなどし、想いや情報を共有します。会の最後には、推進室が進めている女性研究者支援事業の進捗状況などについていち早く報告しています。

#### 第4回 女性研究者フォーラムスペシャル!!

「学部を超えて 立場を超えて 教員とお茶会しましょ!!」  
～ 男女を問わずお越しください～ を開催しました!

日時：2011年5月11日（水） 15:00～16:00

場所：大学会館2階 スコーラム

話題提供者：保健管理センター 准教授（カウンセラー・臨床心理士） 田名場 美雪

「五月のモヤモヤ、ふきとばそう」

参加人数：19名（うち男性5名）

[パンフレット](#) (PDF 595KB)

#### 【フォーラム内容】

田名場先生から、「心のモヤモヤはどうして起こるのか」「心のモヤモヤはいつでも起こりうること」「誰にでも起こりうること」の説明がありました。参加者からは「自分自身、今モヤモヤしている」「モヤモヤに悩む友人・生徒に対してどのように接すればよいのか」などの質問や相談が出され、田名場先生から、様々な事例をもとにモヤモヤとうまく向き合うためのアドバイスがありました。モヤモヤと闘う、かわす、納得する...最後まで話が尽きないフォーラムでした。

また、今回は男女問わず語り合える場としたところ、男性5名（教員1名、学生4名）の参加がありました。「心のモヤモヤ」についてのフォーラムは、秋に第2弾を予定しています。今回は逃してしまった方も、リピーターも大歓迎です。



## 第5回 女性研究者フォーラム特別企画 オープンキャンパス同時開催 「スキンケア&身だしなみ メイクアップ講座」を開催しました！

日時：2011年8月9日（火）

1回目 11:00～12:00

2回目 13:00～14:00

会場：創立50周年記念会館 1階 会議室1

講師：資生堂 ビューティーコンサルタント 小田桐 亜沙子

参加人数：1回目・2回目の合計 96名

[ポスター](#) (PDF 1.22MB)

### 【フォーラム内容】

今回の女性研究者フォーラムは、オープンキャンパス同時開催イベントとして行われました。オープンキャンパスに訪れた女子高校生だけでなく、弘前大学の女子学生や女性教員の参加も多数ありました。メイクアップモデルとして、人文学部4年生の女子学生2名が協力してくれました。講師の小田桐さんから、好感の持てるメイクアップとそれを支える健康な肌を保つスキンケアについて、実演を交えた説明がありました。就職活動にも使える、社会人のたしなみとしての「上品かつ目力のあるメイク」の実演に、参加者一同、目を皿のようにした会でした。



## 女性研究者フォーラム番外編 弘前大学 科学者発見プロジェクト + つがるネッサンス！ 合同企画 「女性研究者と語ろう！ ～バッタの模様の科学～」を開催しました！

日時：2011年8月17日（水） 13:00～14:00

講師：弘前大学 男女共同参画推進室 特任助教 鶴井 香織

参加人数：6名（青森県立青森南高等学校「チーム鈴川」のみなさん）

## 【フォーラム内容】

番外編は、地域の子供たちに研究の面白さを伝える活動として弘前大学が実施している「科学者発見プロジェクト」との合同で行なわれました。講師は本事業の特任助教・鶴井香織が務め、「バッタの色と模様」の生態学的な意味について、時々笑いを交えながら分かりやすく紹介しました。参加した女子高校生は当初それほど昆虫に興味はなかったようですが、研究内容紹介後の「何でも質問コーナー」では、研究以外の質問もOKだったにも関わらず、「バッタの色や模様は一生変わらないの?」「人工的にバッタの色を変えることはできるの?」「昆虫の体の中はどうなっているの?」など、研究に対する質問が次々と投げかけられ、女子高校生の生物学への興味を高めた会になりました。



## 第6回 女性研究者フォーラム

「学部を超えて 立場を超えて 教員とお茶会しましょ!!  
～男女を問わずお越しく下さい～」を開催しました!

日時：2011年11月30日(水) 14:30～15:30

場所：文京キャンパス 大学会館2F スコーラム

話題提供者：農学生命科学部 分子生命科学科 准教授 牛田 千里

「研究の楽しみ、育児の楽しみ～ncRNAと息子を追いかける毎日から～」

参加人数：19名(うち女子学生7名、男子学生3名)

[ポスター](#) (PDF 217KB)

## 【フォーラム内容】

牛田先生から、分子生物学の研究とその面白さや、自身のライフイベントとそれに伴う研究スタイルの変化、苦労、楽しみなどのお話がありました。その中で、牛田先生は、研究を続けるには、時間の使い方の工夫、研究室メンバーの理解に加えて、育児中の研究支援体制の整備は女性研究者にとって大変重要な要素である。教育活動と子育てを含む家庭生活は両立できるが、研究活動の継続が難しい、それをサポートしてくれる体制があると大変助かるというお話をされました。

「研究活動との両立にはさまざまな工夫が必要だが、子供といると楽しい。産んでよかった」と話す牛田先生の笑顔に、元気を頂いたフォーラムでした。



## 第7回 女性研究者フォーラム

「学部を超えて 立場を超えて 教員とお茶会しましょ！！  
～ 男女を問わずお越しください～」を開催しました！

日時：2012年2月15日（水）14:30～15:30

場所：文京キャンパス 大学会館2F スコーラム

話題提供者：教育学部 家政教育講座 准教授 安川 あけみ

話題：「近頃、女性のスカートを踏んでいるのは味方？」

参加人数：16名（うち女子学生7名、男子学生1名）

[ポスター](#)（PDF 2.06MB）

### 【フォーラム内容】

「"スカートを踏む"というのは、かつて、女性大臣が当時の首相の言動について述べた言葉で、"女性の行動の邪魔をすること"のたとえです。」お茶会は、タイトルの種明かしから始まりました。3人の息子を育てるために一度は常勤教員を退職したこと、非常勤講師や研究室の居候として研究活動を行っていたこと、そして今年度から本学に赴任されたことが語られました。また、泊りがけの学会に、乳幼児を含む3人の息子とその面倒を見るご両親の総勢6人で行かれたこともあるなど、子供をもつ女性が研究を続ける時の苦労も話されました。

子どもをもつ女性が仕事を続ける時、以前は利害関係が対立する人たち（夫や夫の家族、職場の上司や男性陣、世間一般など）が壁となることが多かったけれど、そういった人たちが理解を示すようになった近年ではむしろ、女性の同僚や実の親など本来一番の味方であるべき人達が壁となることの方が多いかもしい、という問題提起に対し、参加者から「将来どこでどのように働かなどの進路について考えるとき、保護者の意見の影響が大きい」といった同様の実情が語られました。一方で、「両親などの身近な人たちに支えられたおかげで頑張ってきた」という声もありました。家族や同僚が互いに「壁」ではなく「支え合う存在」となることの大切さを認識する会となりました。



## 第8回 女性研究者フォーラム

「学部を超えて 立場を超えて 教員とお茶会しましょ！！  
～ 男女を問わずお越しください～」を開催しました！

日時：2012年3月14日（水） 14:30～15:30

場所：文京キャンパス 大学会館2F スコーラム

話題提供者：教育学部 家政教育講座 教授 日景 弥生

話題：「自分らしく生きる」

参加人数：13名（うち「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」加盟大学教員1名、女子学生3名、男子学生3名）

[ポスター](#)（PDF 2.05MB）

### 【フォーラム内容】

平成23年度最後の開催となる今回は、春休み中にもかかわらず、6名の学生の参加がありました。日景さんはホワイトボードを使いながら、「自分らしく生きる」ためにご自身が座右の銘としてこられた3つの言葉、「体力は知力である」「若さは最大の武器（能力）である」「友は財産である」について語られました。そして、「自分の力を見出し、それを高めようという貪欲さが、仕事や家庭生活を含めた日々の課題を解決していくための武器をたくさん持つことに繋がる」、というメッセージを学生たちに贈られました。また、ご自身の子育てに関して、子供が赤ちゃんの頃から深い愛情を持って何度も話しかけることで、家族間に固い信頼関係を築いてこられたというお話も印象的でした。後半のフリートークでは、様々なことを経験することで能力が高まるということについて、参加者がそれぞれの経験や思いを語りました。一人暮らしをしている男子学生の「鮮度の良い旬の野菜をうまく選んで買い物をするようになった」という体験談や、「下宿屋のおかみさんが病気で5か月寝込んだ時に、私が下宿に暮らす人たちの食事や洗濯などを全てやりました」と語られた本学監事の学生時代のお話に一同が驚くなど、笑いあり感心ありの和やかな会となりました。





## 2.5.3 学会開催時の託児支援制度

### 学会開催時の託児支援制度について

#### はじめに

男女共同参画推進室では、女性研究者を中心に、学会参加を促進するためのニーズ調査の一環として、本学の教員が開催に携わる学会等における託児利用の支援制度を開始した。

本制度は、子どもを連れての学会参加を容易にし、研究交流活動を活発にすることを目的として、学会開催時の託児費用を男女共同参画推進室が補助するものである。

#### 1. 事業開始までの経緯

「つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人才」事業における問題意識のひとつに、「女性研究者の子連れでの学会参加の困難さ」がある。こうした困難さを軽減していくための取り組みとして、男女共同参画推進室および女性研究者の研究力を強めるタスクチームでは、①意識啓発（ニーズの把握と広報活動）、②学会託児室開設支援（具体的な支援策）を目的として、平成22年度末より学会開催時の託児支援制度の策定・実施に向けた検討を開始した。

平成23年度においては、弘前大学で開催される学会での託児室開設を容易に行えるようにするための制度設計として、①受付窓口の一本化（男女共同参画推進室）、②利用規約（学会主催者向け・参加者向け）の策定、③手続きに必要な書類の書式作成を行い、これらと並行して、学会託児室の託児業務を請け負う法人（NPO 法人弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる）との協議を行い、託児請負業務に関する契約を締結した。

こうした準備作業に基づき、平成23年9月22日付で全学に向けての事業開始の通知と託児室開設支援を希望する学会の公募を行った。

#### 2. 平成23年度事業実績

(1) 日本特殊教育学会第49回大会（9月23日～25日 於：弘前大学文京町キャンパス）

大会参加者数：約1800名

託児室利用者：男子9名 女子8名（のべ30名）

(2) 日本植生史学会第26回大会（11月5日～6日 於：弘前大学文京町キャンパス）

大会参加者数：男性120名 女性42名

託児室利用者：男子1名 女子2名（のべ5名）

これらの学会の他に、4つの学会・研究会からの利用に関する問い合わせ・申請書式の請求があった。

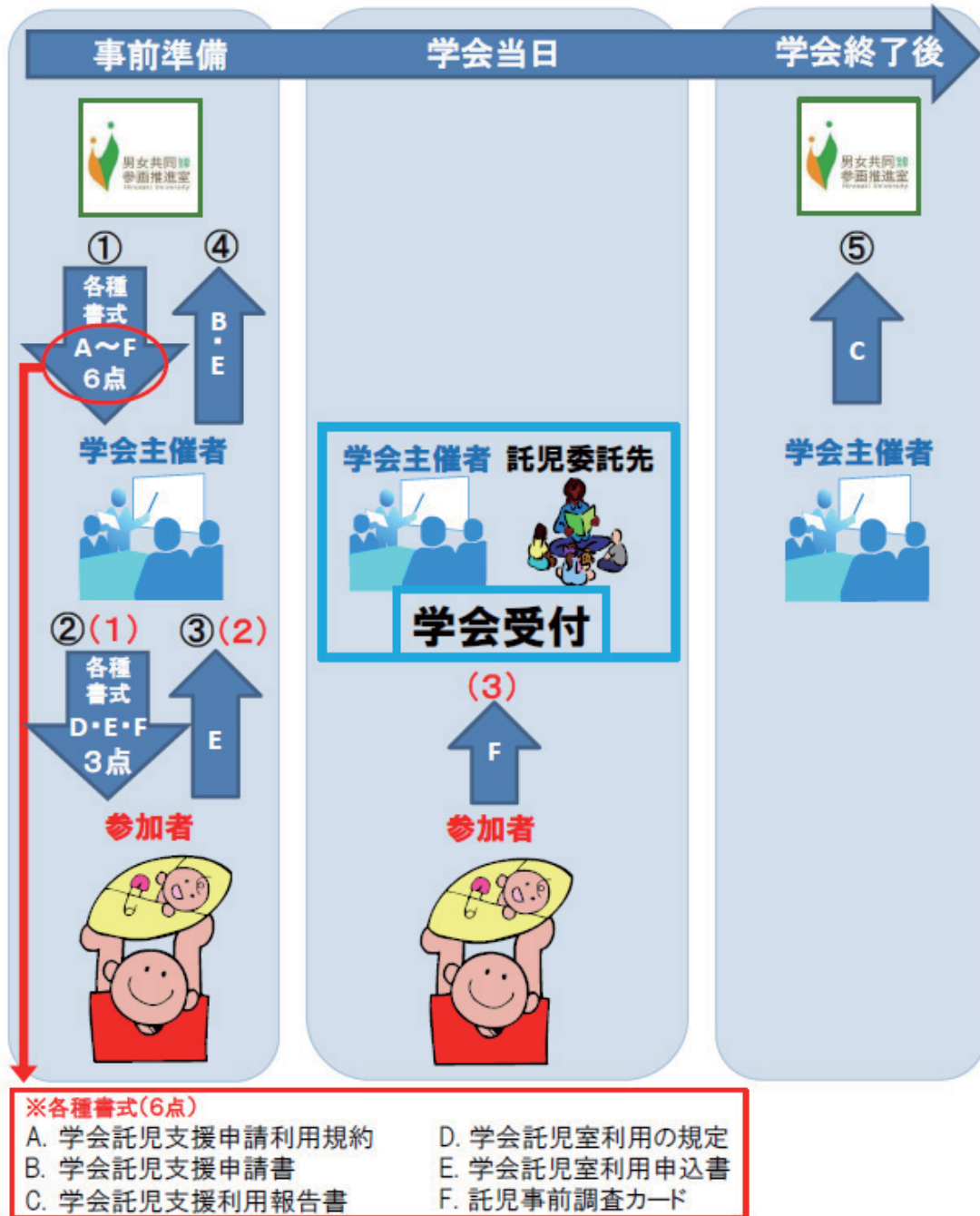
#### 3. 平成24年度に向けた課題

男女共同参画推進室への直接的な問い合わせ以外にも、インフォーマルな形での反響も大きく、また実際に本制度を利用した2学会関係者からも好評を得た。平成24年度においては、本制度の「試行」から「継続」への本格的な道すじをつけていくことが課題となる。費用面でのサポートがあるから利用するのではなく、学会における託児室の開設を、必要不可欠なものとして定着させていくための、さらなる意識啓発が必要となる。

#### 4. 資料

「学会託児支援利用に関する流れ」(「つがるネッサンス！」HPに掲載)

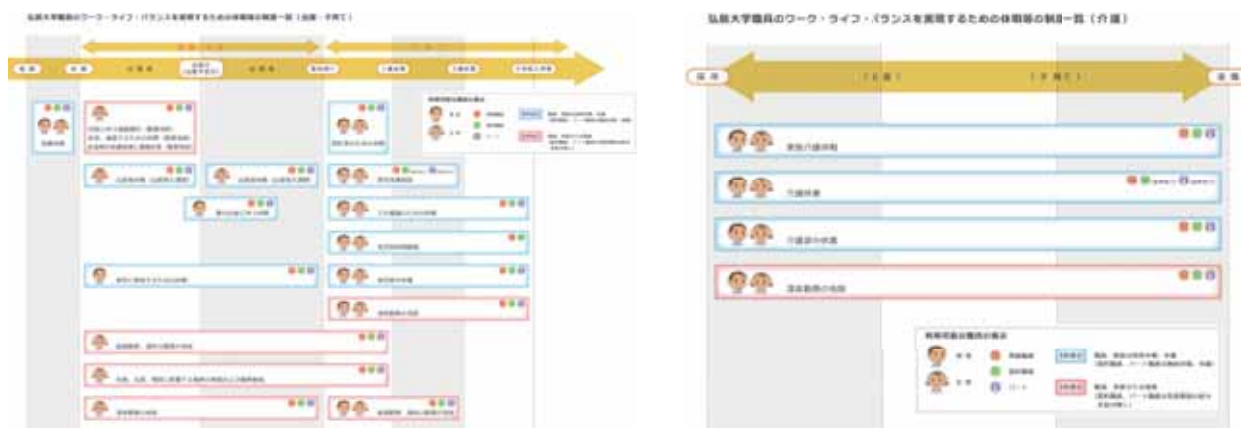
(①~⑤:学会主催者, (1)~(3):学会参加者)



## 2.5.4 教職員のための制度・手続き情報ナビ

### 教職員のための制度・手続き情報ナビ Web 公開

平成22年度の事業初年度は、弘前大学の育児や介護に関する休暇等にどんなものがあるのか、教職員の誰が利用できるのかを知ってもらうために一覧表を作成しWebで公開しました。



事業2年目の平成23年度では、教職員が欲しい情報を自らが簡単に入手し、生活設計が構築できるよう、併せて、育児をしながら、仕事も続けたい、介護をしながら仕事も続けたい、そんな教職員がワークスタイル・ライフスタイルを変革し、仕事と家庭のバランスを図りながら両立を実現して頂くためのサポートとして、出産から、子育て、介護等に関する制度や手続きの情報を提供するための、教職員のための制度・手続き情報ナビ（通称「情報ナビ」）を作成し平成23年11月21日Web公開しました。

市や県の子育て・介護に関する情報のほか、NPOなど地域での子育てを支援する情報など盛り込まれています。

学内の手続に関する関係様式などは、大学のホームページから入手することができますが、情報ナビでより簡単に入手することができます。

この情報ナビは、学内限定です。しかし、緊急を要する夜間休日の当番医に関しては、いつでも、どこからでもアクセスできるよう配慮しています。

今後この情報ナビが、教職員にとって使いやすいものとなるよう、教職員が必要とする情報を把握するとともに、仕事と家庭の両立の実現に向けて制度等を知ってもらうために学内での周知を徹底していく必要があります。



### 妊娠・出産・育児に関する情報

妊娠出産に関すること	1-1-1	⇒ 母子健康手帳について
	1-1-2	⇒ 妊婦や乳幼児の健康診査について
	1-1-3	⇒ 出産前休暇について
	1-1-4	⇒ 出産後休暇について
	1-1-5	⇒ 【男性教職員】妻の出産に伴う夫の休暇について
	1-1-6	⇒ 【男性教職員】妻が出産する場合の子の養育休暇について
	1-1-7	⇒ 妊娠中の出勤時間緩和について
	1-1-8	⇒ 妊娠中の勤務時間中の休息について
	1-1-9	⇒ 妊産婦の超過勤務及び週休日勤務について
	1-1-10	⇒ 妊産婦の深夜勤務について
勤務時間・休業、休職に関すること	1-2-1	⇒ 変形労働時間制について
	1-2-2	⇒ 専門業務型裁量労働制について
	1-2-3	⇒ 深夜勤務が免除される職員について
	1-2-4	⇒ 育児休業について
	1-2-5	⇒ 育児休業中の給与及び手当金について
	1-2-6	⇒ 育児休業の例(夫婦共働きの場合)
	1-2-7	⇒ 育児短時間勤務について
	1-2-8	⇒ 育児部分休業について
	1-2-9	⇒ 育児休業中の共済組合掛金について
	1-2-10	⇒ 休職について
育児に関すること	1-3-1	⇒ 子育て職員の超過勤務及び週休日勤務について
	1-3-2	⇒ 手当の種類について
	1-3-3	⇒ 乳幼児医療給付制度について
	1-3-4	⇒ 病児病後児保育について
	1-3-5	⇒ 子育てサポートについて(有料)
	1-3-6	⇒ ひろだい保育園について
	1-3-7	⇒ 保育所について(認可保育所)
	1-3-8	⇒ 無認可保育所について(認可外保育施設)
	1-3-9	⇒ 保育所の保育料について
	1-3-10	⇒ 弘前市トワイライトステイ事業について(夜間や休日の保育ニーズにお応えします。)
	1-3-11	⇒ 学童保育について(放課後児童クラブ)
	1-3-12	⇒ 授乳等の育児休暇について
	1-3-13	⇒ 子どもの看護休暇について
非常勤職員の休暇(無給の休暇)	1-4-1	⇒ 出産前休暇について
	1-4-2	⇒ 出産後休暇について
	1-4-3	⇒ 妻の出産に伴う休暇について
	1-4-4	⇒ 妻が出産する場合の休暇について
	1-4-5	⇒ 授乳等の育児休暇について
	1-4-6	⇒ 子どもの看護休暇について

※ 各項目の詳細は学内専用ページとなります。学外からは閲覧できませんのでご注意ください。

### 介護・介護保険・共済に関する情報

	2-1-1	⇒ 家族を介護する時の休暇について(介護休暇)
	2-1-2	⇒ 介護休業について

介護の休暇・休業に関する事	2-1-3	⇒ 介護休業期間について
	2-1-4	⇒ 介護休業中の給与及び手当金について
	2-1-5	⇒ 介護部分休業について
	2-1-6	⇒ 介護部分休業中の給与について
介護保険に関する事	2-2-1	⇒ 介護保険制度について
	2-2-2	⇒ 介護認定について(要介護認定、要支援認定)
共済組合に関する事	2-3-1	⇒ 子どもが生まれた時の出産費について
	2-3-2	⇒ 入院した時の入院附加金について
	2-3-3	⇒ 他人からけがをさせられたとき(交通事故にあった時の心得)
	2-3-4	⇒ 前期高齢者医療制度について
	2-3-5	⇒ 後期高齢者医療制度について


※ 各項目の詳細は学内専用ページとなります。学外からは閲覧できませんのでご注意ください。

**結婚に関する情報**

結婚した時の手続き等に関する事	3-1-1	⇒ 結婚休暇について
	3-1-2	⇒ 結婚手当金の請求について
	3-1-3	⇒ 扶養手当の認定について(教職員に妻(夫)が扶養される場合)
	3-1-4	⇒ 組合員証の記載事項変更について
	3-1-5	⇒ 共済組合被扶養者の認定について
	3-1-6	⇒ 人事記録処理のための届について

※ 各項目の詳細は学内専用ページとなります。学外からは閲覧できませんのでご注意ください。

**わたしの知りたいQ&A**

国民年金に関する事	4-1-1	⇒ 子どもが20歳になりましたが、まだ学生です。国民年金に加入しなければならないのでしょうか。
	4-1-2	⇒ 学生で収入がないため保険料が払えません。どうしたらよいでしょうか？
子育てに関する事	4-2-1	⇒ 転動してきたばかりで友達がいません。子育て中のお母さん達と友達になりたいのですがどうしたらよいでしょうか。
	4-2-2	⇒ 子育てについての悩みや相談はどこで聞いてくれますか？
	4-2-3	⇒ 子育て支援センターは具体的にどんな支援をしてくれるところですか
	4-2-4	⇒ 予防接種や乳幼児健診について、どこに相談すればよいでしょうか？
	4-2-5	⇒ 子どもの学校生活についての問題や心配ごとなどは、どこに相談すればよいでしょうか？
	4-2-6	⇒ 子どもが保育所で虐待を受けているようで心配です。どうしたらよいでしょうか？
		⇒ 子どもがいうことを聞いてくれず、つい叩いてしまいます。どうしたらよいでしょうか？
4-2-7	⇒ 「子育て応援わくわく店事業」とはどんなものですか？(青森県の実施事業)	
健康に関する事	4-3-1	⇒ 休日や夜間の当番医を知るにはどうすればよいでしょうか？  <a href="#">弘前医師会 急患などのお知らせ</a>
	4-3-2	⇒ こころの悩みについて電話で相談できるところはありますか？
	4-3-3	⇒ 精神保健に関して相談できるところはありますか？
	4-3-4	⇒ エイズについて相談できるところはありますか？
	4-3-5	⇒ 不妊治療・不妊について相談できるところはありますか？

※ 各項目の詳細は学内専用ページとなります。学外からは閲覧できませんのでご注意ください。

**関連機関・団体等 一覧表**

弘前市役所	〒036-8551 弘前市上白銀町1-1	0172-35-1111 (代表)	
	子育て、介護、その他生活全般にかかわる相談、支援		
弘前市教育委員会	〒036-1393 弘前市賀田1-1-1 岩木庁舎	0172-82-1639	
	学校に関する相談、転校に関する事など		
弘前市民参画センター	〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13	0172-31-2500	
	子育て、サポートシステム「さんかくネット」の運営		
青森県庁 子どもみらい課	〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号	017-734-9301	
	保育所、虐待、母子保健など		
青森県庁 青少年・男女共同参画課	〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号	017-734-9224	
	男女共同参画の施策の企画・調整、推進など		
青森県子ども家庭支援センター	〒030-0822 青森市中央3丁目17-1 アピオあおもり	017-732-1011	
	総合相談、情報提供		
青森県男女共同参画センター	〒030-0822 青森市中央3丁目17-1 アピオあおもり	017-732-1085	
	一般相談、情報ライブラリー活用、講演会への参加		
県内市町村			
	妊娠、出産、子どもに関する相談、手当、年金、介護保険、など		
青森労働局	〒030-8558 青森市新町2-4-25 青森合同庁舎	017-734-4111	
	労働行政サービスの提供、各ハローワークの案内		
弘前市医師会	〒036-8045 弘前市野田2-7-1	0172-32-2371	
	医療機関の案内、休日当番医の案内		
病児保育室「ことりの森」	〒036-8092 弘前市城東北4丁目4-20	0172-29-3112	
	病後児保育の利用相談		
病児保育室「きりん」	〒036-8093 弘前市城東中央4丁目2-9	0172-27-2292	
	病後児保育の利用相談		
五所川原市ファミリー・サポート・センター	〒037-0045 五所川原市字新町33-1	0173-35-8953	
	育児の援助		

※ アイコンをクリックすると、リンク先のホームページが開きます。

## 2.5.5 強めるタスク

### 研究力を強めるセミナー開催

#### つがるネッサンス！特別企画「国際学会なんてこわくない！－初級編－」 ～ポスター発表の基本からバンケットでの交流まで～

日 時：平成24年2月23日（木）

場 所：弘前大学（文京キャンパス）附属図書館本館3F ラーニング・スクエア・スペース

講 師：エープラス イングリッシュスクール 講師 ミッシェル アーネンセン 氏

内 容：ポスター発表の基本、自己紹介や意見交換で使える英語のミニレッスン、自由質問

参加者：9名（女性教員5名、ポスドク1名（男性1名）、大学院生2名（男女各1名）  
学部生1名（男性1名））

オブザーバー：男性1名、女性4名

#### 【セミナー概要】

男女共同参画推進室では、女性研究者の研究力を強めること、および、理系の裾野を広げることを目指し、女性教員および理系を専攻する全てのポスドク・大学院生・学部生を対象に、国際学会対策として英会話セミナーを開催しました。参加者9名は皆、国際学会での発表を控えている、または目指している方々でした。

今回は初心者向けとし、国際学会や英語での交流に対する「億劫感」を取り払うことを中心に行いました。セミナーの内容は、ポスター発表の基本や自己紹介時のマナー、バンケットで会話が弾む表現や話しかけ方などで、場面を設定するロールプレイにより学習しました。プログラムの合間には“Who am I?”という名前当てゲームで緊張をほぐし、リラックスして英語に親しみました。プログラム最後の自由質問タイムでは、冠詞の付け方、呼称（Dr./Professor/Ms/Mr.など）、相手と議論している際の相槌の打ち方など、日本ではなかなか身に付けにくい「英語感覚」についての質問が相次ぎました。

アメリカ人の父と鶴田町出身の母を持つニューヨーク育ちのミッシェル先生は、英語に時々津軽弁を交え、セミナーを進行されました。そのおかげでセミナーは笑顔が絶えず、時には笑いの渦が巻き起こりました。英語学習の最大の妨げの一つである「恥じらい」や「ためらい」を感じることなく、参加者一同、集中して楽しく英語を学習することができました。参加者からはセミナーの定期的な開催を望む声が多く寄せられました。



# 第 3 章

---

資 料



平成23年6月22日（陸奥新報社提供）



榎橋教授の話に熱心に耳を傾ける参加者

### 女性研究者の現状紹介

弘大で米大学教授が講演

弘前大学男女共同参画推進室（室長・杉山祐子）が17日、第3回講演会が17日、同大学の創立60周年記念会館「コラボ弘大」

で開催された。大学院生ら約70人が米国フリスウェスタン大学の榎橋敏夫教授の話に耳を傾けた。

講演は弘大の女性研究者研究活動支援事業

「つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人材」の一つで、大学生や大学院生に海外で研究することについて知ってもらいたいと企画された。

榎橋教授は「日米の

教育研究制度の比較と女性研究者の役割」をテーマに、米国の研究者育成システムや女性研究者の割合が日本に比べて高いことなどを説明。コミュニケーション能力を磨くこと、誰も知らないことを見つけて、研究者としての成功術を紹介した。

（石橋治佳）



植物標本作成を体験する参加者ら

# 植物標本作り学ぶ

弘大白神 観察園 学生ら基礎を指導

西目屋村川原平にある弘前大学白神自然観察園で18日、「白神の植物標本作成講座」が開かれ、市民が植物標本の作り方の基礎を学んだ。この日は市民20人と理工学部・農学生命科学部からアシスタント役の学生4人が参加し、同研究所の山岸洋貴助教が講師を務めた。

参加者は同自然観察園で解説を受けながらハクウンボク、シシガシラなどを採取。その後、山岸助教から説明を受けて教育研究棟で植物標本の整形や押し方を学んだ。最後に参加者は、山岸助教と学生があらかじめ押しつけた植物を台紙に張り付け、植物標本を完成させた。山岸助教は「標本は植物の特徴を分かりやすいように作ることが重要」と話した。

（齋絢一郎）

# 好感持てるメイク学

## 弘大男女共同 参画推進室 高校生ら対象に講座



参加者がメーキャップの基本などを学んだ「スキンケア&身だしなみメイクアップ講座」

# スキンケアや基本を実践

弘前大学男女共同参画推進室（室長・杉山祐子人文学部教授）主催の「スキンケア&身だしなみメイクアップ講座」が9日、弘前大

学の50周年記念会館で開かれ、高校生や在学生在が好感を持てる基本のメーキャップ方法を学んだ。

（石橋治佳）

講師の資生堂のビューティーコンサルタントの小田桐亜沙子さんは「きれいなメイクにはきれいな肌が大ごと、スキンケアについて説明。同大の学生をモデルに好感度の高い透明感のあるメーキャップを実践した。

弘前中央高校2年の山形友梨香さんと福士

つぐみさんは「普段やっている方法よりも丁寧。化粧水の使い方などが勉強になったので、参考にしたい」と感想を話した。



鶴井特任助教 (中央) と交流する生徒ら

# 研究の面白さ知って

## 青南高 チーム 女性特任助教と交流

弘 大

弘前大学が進めている「科学者発見プロジェクト」と「つがルネッサンス!」地域でつなく女性入才」の合同企画で、青森南高校の女子生徒5人が17日、同大農学生命科学部で研究体験を行い、女性研究者と交流した。

同プロジェクトは生徒が提案したテーマを実際に大学で研究し、研究の面白さを知ってもらう企画。今年には県内から過去最多の80件の応募があり、青南高の5人ら11組が採用された。同校のチームは全員が女性のため、次

世代の女性研究者を育てる「つがルネッサンス」事業も併せて行うこととし、女性研究者との交流の場面も日々に盛り込まれた。現在活躍している女性研究者として、同大の鶴井香織特任助教が

た昆虫の模様についての研究内容を説明。鶴井特任助教は「女性は色や模様に関心が高く、色の科学は女性の得意分野の一つ」などと話し「色や模様についてはまだ解明されていない部分も多い。皆さん一緒にやってみ

んか?」と呼び掛けた。

少人数での交流だけに、生徒たちは気軽に質問。同校2年の鈴木沙織さん(16)は「学校では習えない専門的な話が聞けて興味を持った。女性研究者は格好いい」と話した。

また同大農学生命科学部の前多隼人助教に教わりながら、米に含まれる機能性成分の分析にも取り組み、研究者気分を味わった。

(今井珠世)



昆虫標本の作り方を学ぶ子どもら

# 昆虫標本作りに夢中

児童対象に  
弘前で講座  
トンボなど採取も

弘前大学生涯学習教  
育研究センターは3  
日、弘前市坂元の市こ  
どもの森ビスターセン  
ターなどで小学生が昆  
虫採取方法や標本作り  
を学ぶ「つがるの昆虫  
博士養成講座」を開い  
た。

弘前市坂元の市こ  
どもの森ビスターセン  
ターは弘前大学の白神自  
然環境研究所の中村剛  
之准教授、男女共同参  
画推進室の鶴井香織特  
任助教と赤嶺真由美特  
任助手が務めた。

講座は子どもたちに  
自然科学に興味を持っ  
てもらおうとともに、研  
究者が行っている活動  
について理解を深めて  
もらおうと初めて開か  
れた。

この日は市内の小学  
校から3人が参加。講  
師は弘前大学の白神自  
然環境研究所の中村剛  
之准教授、男女共同参  
画推進室の鶴井香織特  
任助教と赤嶺真由美特  
任助手が務めた。

子どもたちは中村准  
教授らの案内で、こど  
もの森でトンボやチョ  
ウ、バッタなどを採  
取。採取した昆虫をピ  
ジターセンサーで図  
鑑と照らし合わせ、最  
後に用意されたカプ  
トムシを使って昆虫  
標本の作り方を学ん  
だ。

附属小学校3年の三  
浦優介君は「昆虫が大  
好きなので参加した。  
昆虫の捕まえ方が分か  
り勉強になった」と笑  
顔を見せた。

（齋絢一郎）

## 3.2 平成23年度の活動記録

平成23年 5月11日	第4回女性研究者フォーラム開催（文京地区）
平成23年 6月17日	第3回講演会 「日米の教育研究制度の比較と女性研究者の役割～医学生物学を中心に～」開催
平成23年 6月18日	「白神の植物標本作成講座」開催
平成23年 7月7日	平成23年度パートナーフェロー公募開始
平成23年 8月9日	第5回女性研究者フォーラム特別企画開催（文京地区）
平成23年 8月17日	女性研究者フォーラム番外編（文京地区） 弘前大学科学者発見プロジェクト+つがるネットワーク！合同企画
平成23年 9月3日	科学に興味を沸く講座「つがるの昆虫博士養成講座・入門編」後援
平成23年 9月20日	News Letter「さんかくつうしん Vol.5」発行
平成23年 9月22日	学会開催時の託児支援開始
平成23年10月20日	弘前大学とむつ市による生涯学習講座「活性化する青森の今とこれから」にて講演
平成23年10月22日	「ミニ昆虫展とバッタのジャンプ大会」開催
平成23年10月31日	第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 「今、社会が科学者に求めることーソーシャル・ウィッシュ」ポスターセッション 参加（筑波大学）
平成23年11月1日～2日	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム 「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現 ～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～」参加（筑波大学）
平成23年11月21日	「教職員のための制度・手続き情報ナビ」ウェブサイト公開
平成23年11月30日	第6回女性研究者フォーラム開催（文京地区）
平成23年12月7日	第4回講演会 「光の研究・教育に魅せられて～未知へ挑み創成する楽しさと人材育成～」開催
平成23年12月8日～9日	国立女性教育会館主催「大学職員のための男女共同参画推進研修」参加
平成23年12月9日	ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）加入
平成24年 1月26日	弘前大学ラボバスプロジェクトDNA実験講座 「昆虫のDNAを比較する、尾上総合高校編～」開催
平成24年 1月27日	第2回四国女性研究者フォーラム 「若手の活躍促進～四国のマリー・キュリーを育てよう～」参加（愛媛大学）
平成24年 2月8日	他大学先進事例の視察（名古屋大学）
平成24年 2月13日	平成23年度北東北地域大学連携による男女共同参画推進シンポジウム 「ライフステージに応じた多様な支援の実現に向けて」共催（秋田大学）
平成24年 2月14日	「弘前大学における男女共同参画の取り組みに関する各部署等アンケート」の実施
平成24年 2月15日	第7回女性研究者フォーラム開催（文京地区）
平成24年 2月23日	研究力を強めるセミナー開催（文京地区）
平成24年 3月10日	森の探検隊「早春の里山ウォーキング」後援
平成24年 3月12日	News Letter「さんかくつうしん Vol.6」発行
平成24年 3月14日	第8回女性研究者フォーラム開催（文京地区）

### 3.2

文部科学省科学技術人材育成費補助金  
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

**「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」**

**平成23年度活動記録**

発行 弘前大学男女共同参画推進室  
発行日 2012年3月31日  
連絡先 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
TEL 0172-39-3888  
FAX 0172-39-3889  
URL <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>  
E-Mail [equality@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:equality@cc.hirosaki-u.ac.jp)



男女共同<sup>弘前</sup>参画推進室  
Hirosaki University

〒036-8560 青森県弘前市文京町1  
電話 0172 (39) 3888 FAX 0172 (39) 3889  
Email: equality@cc.hirosaki-u.ac.jp  
URL: <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>